

秋田大学 概要 平成21年度 要

GENERAL INFORMATION BULLETIN 2009

AKITA
UNIVERSITY
2009

秋田大学概要 2009

目次 CONTENTS

- 01 学長あいさつ
- 02 基本理念・基本的目標・教育目標
- 04 中期計画の重点事項
- 教育研究
 - 07 生体調節シグナルの統合的研究
 - 08 北東北における総合がん専門医療人養成プラン
 - 09 あきたアーバンマイン技術者養成プログラム
 - 10 資源開発人材育成プログラム
 - 11 プロジェクト[4A]
- 12 沿革
- 14 運営組織
- 15 教育研究組織
- 16 事務組織
- 17 役職員
- 18 教育文化学部・教育学研究科
- 20 医学系研究科・医学部
- 22 工学資源学部・工学資源学研究科
- 大学施設
 - 26 医学部附属病院
 - 28 附属図書館
 - 29 教育文化学部附属学校園
 - 30 学部附属教育研究施設
 - 31 鉱業博物館
 - 32 学内共同教育研究施設等
 - 34 センター等
 - 36 福利厚生施設等／体育施設等
 - 37 東京サテライト
 - 38 工学資源学部通信教育講座
 - 39 就職支援活動
 - 40 平成21年度大学開放事業
 - 41 平成21年度主な課外行事
- 資料編
 - 44 学生の定員・現員(学部／大学院)
 - 45 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
 - 46 卒業生・修了者数／学位授与数
 - 日本学生支援機構奨学生
 - 47 卒業生等就職状況
 - 48 外国人留学生数／外国人研究員等
 - 49 国際交流協定校
 - 50 平成20年度学生表彰受賞者
 - 51 役員数／教職員数
 - 52 平成21年度予算／外部資金受入状況
 - 平成21年度科学研究費補助金採択状況
 - 53 土地・建物
 - 54 公開講座
 - 55 刊行物一覧
 - 56 アクセス
 - 57 各所在地・連絡先一覧
 - 58 手形地区施設配置図
 - 59 本道地区施設配置図
 - 60 保戸野地区施設配置図

地域への責任を自覚し、 世界に発信する 教育・研究拠点をめざして

学長あいさつ

Message from the President



秋田大学は、地域と共に発展し地域と共に歩むという基本原則のもとに、北東北の教育研究の拠点として、有為な若者を育成し多様で独自性豊かな成果を世界に発信することをめざしております。これについて、昨年9月新たに「教育」「研究」「社会貢献」「国際化」それに「経営」の5つの柱からなるアクションプラン（「秋田大学吉村プラン」）が策定され、着実に実行に移されています。

私は今日、グローバル化に加え世界同時不況の波のなかで地方が著しく疲弊衰退する状況を見るにつけ、国立大学法人が「社会の要請に応える自律的な知の経営体」として、その持てる人的知的資源を通じて地域創成にも積極的な役割を果たすべきであると考えます。大学の機能として強調される社会貢献についても、そのような見地から捉えています。

また私は、激変する時代の明日を担う若者たちが自らの思考と行動において価値創造的であることを願っています。「環境」と「共生」を本学のスローガンに掲げて5年が過ぎましたが、この言葉は現代を生きるうえでの普遍的な指針として意義を増しつつあります。それは決して月並みではなく、現代人の思考を根底において規定するものだと思います。今日もはや「環境倫理」への視点を抜きにした思考は、表層的であると言わざるをえません。本学は教育文化、医、それに工学資源の三学部から構成されていますが、それぞれが地域・社会の持続的発展に必須の役割を負う存在です。三学部にはこれまでも誇るに足る実績が積み重ねられていますが、私はそうした実績をさらに揺るぎないものにしてまいります。

秋田大学の今後を以上のように展望するとき、たとえば本学附属学校園における「エコ教育」の充実、有限な資源再利用を含む資源学の伝統の再生、さらに地域医療にたずさわる医師の発掘などは、ぜひとも取り組むべき課題であるように思えます。

地域に根ざし地域の羅針盤となって、秋田大学は一層活発な活動を展開してまいります。

国立大学法人秋田大学長 吉村 昇

歴代学長

劔木 亨弘* 昭24. 5.31～昭24. 7.30
池田 謙三* 昭24. 7.31～昭25. 5. 5
佐野 秀之助 昭25. 5. 6～昭30.12.24
五十嵐 勇* 昭30.12.25～昭31. 2.29
渡邊 萬次郎 昭31. 3. 1～昭41. 2.28

伊藤 泰一 昭41. 3. 1～昭44. 6. 9
藤島 主殿* 昭44. 6.10～昭46. 2.22
渡邊 武男 昭46. 2.23～昭51. 2.22
九嶋 勝司 昭51. 2.23～昭56. 2.22
梅津 良之 昭56. 2.23～昭61. 2.22

渡部 美種 昭61. 2.23～平3. 2.22
新野 直吉 平3. 2.23～平8. 2.22
徳田 弘 平8. 2.23～平13. 2.22
三浦 亮 平13. 2.23～平20. 3.31
吉村 昇 平20. 4. 1～

*は、事務取扱

基本理念 基本的目標

教育目標

秋田大学は、次の基本理念を定め、それを達成するための5つの基本的目標をもって活動を推進します。
また、特に養成する人材像を教育目標として定め、教育にあたります。



基本理念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標

1. 「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を養成します。
2. 基礎から応用までの研究、特に『「環境」と「共生」』を課題とした独創的な研究活動を行います。
3. 地域と共に発展し、地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
4. 国際的な教育・研究拠点の形成を目指し、地球規模の課題の解決に貢献します。
5. 学長のリーダーシップの下、柔軟で有機的な運営体制を構築します。

教育目標

学部

1. 社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、社会の発展に貢献できる人材を養成します。
2. 地域の文化的・経済的発展に貢献できる人材を養成します。
3. 国際人として通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を養成します。

大学院

1. 国際人として通用する、高度な専門性・独創性と倫理性を備えた人材を養成します。
2. 専門性の高い研究能力を備え、指導者になりうる人材を養成します。

中期計画の重点事項

1. 教育に関する重点事項

本学独自の知的付加価値を追求した学生教育

「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度な倫理性を備えた、社会の発展に貢献できる人材を養成します。

そのため「教育推進総合センター」並びに「学生支援総合センター」を設置し、目標を実現するため教育システムを全学の教職員が協力して推進します。

高等教育における教育方法開発計画の重点化

本学の全教職員が参加する宿泊型のFDワークショップ等を開催し、本学の教育的使命のより具体的な基盤環境づくりに取り組みます。

2. 研究に関する重点事項

「一定の基盤研究費の保証」と「基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクト」の形成

人文科学、基礎分野のように直ちに成果を期待できないが重要な学問分野、独自性の高いもの及び萌芽性のある一般研究等を興隆させると同時に本学の基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクトを推進します。

先端分野の教育・研究の積極的な推進

バイオサイエンスとレアメタルに関する2つの国際的な教育・研究拠点を形成するため、「バイオサイエンス教育・研究センター」及び「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」の拡充・整備に努めます。

3. 社会貢献に関する重点事項

産学官及び地域連携の推進

産業・医療・教育という観点から、「産学官連携・地域との共生」の本学の拠点として産学連携推進機構を拡充・整備します。

「教育推進総合センター」を中心に人的・物的資源を総動員し、社会・地域・世界への貢献を推進し、地域との共生を図ります。

附属病院の充実

教育と研究の視座に医療を加えて、安全性や快適性の向上を目指した附属病院の再開発を推進し、最先端医療を提供すると同時に附属病院の経営の安定化を目指します。

4. 国際交流に関する重点事項

留学生受入の拡大と 本学学生の海外留学推進

本学への留学生受入を拡大するために、「国際交流センター」を中心に、国際広報活動の活性化、国際的な教育研究の推進と支援を行います。また、学部留学生、大学院留学生や海外からの研究者が学習と研究に専念できる環境を整えます。一方、本学学生が海外で学習する機会を多くするための支援を行います。

教 育 研 究

生体調節シグナルの統合的研究

北東北における総合的がん専門医療人養成プラン

あきたアーバンマイン技術者養成プログラム

資源開発人材育成プログラム

プロジェクト[4A]

グローバルCOEプログラム 生命科学分野 生体調節シグナルの統合的研究

Global COE Program

(実施期間:平成19年度採択~平成23年度)

グローバルCOEとは？

グローバルCOEプログラムは、平成14年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業(<http://www.jsps.go.jp/j-globalcoe/index.html>より抜粋)です。教育・研究の場である大学にも「選択と集中」の原理が適用されつつあります。是非はともかくとして、大学が今後発展していく上で、「選択と集中」に利を得ていくことは重要です。学長を頂点とした国立大学法人が適切な戦略を立て、国から重点的支援を得られるか否かが、学生の恵まれた学習環境・研究環境実現の成否を分ける一つのポイントになる現況で、秋田大学は、一流大学としての面目を保つ実績を積んできました。

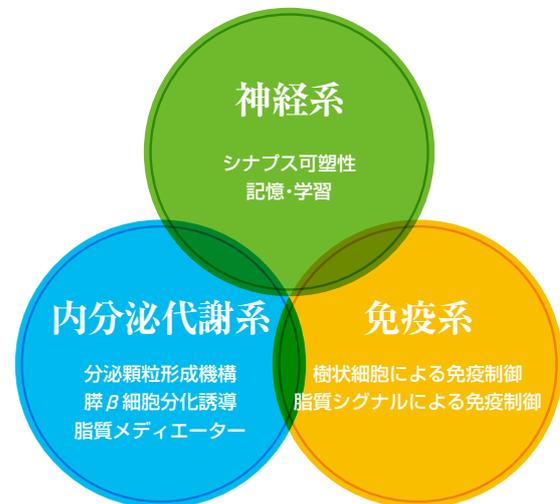
21世紀COEプログラムから グローバルCOEへ

平成19年度グローバルCOEプログラム生命科学領域においては55件の応募から13件が採択され、その一つが秋田大学と群馬大学が連携して提案した「生体調節シグナルの統合的研究」です。これは、両大学が5年間連携して、既存の学問領域の枠を超えた生体調節シグナルに関する教育研究を、両学長の主導のもとに大学規模で一体となって展開するものです。両大学の効率的連携・融合により、神経系・内分泌系・免疫系という互いに連関する生体の3大調節系の教育研究を相補的かつ相乗的に展開することが可能になります。国際的競争力をもつ強固な拠点を形成し、基礎研究の成果をイノベーション創出に繋げるとともに、生命科学研究の次代を担い、国際的に活躍する若手研究者を養成していきます。



教育研究の概要

研究面では既に多くの知見が得られており、英科学誌Natureをはじめとする国際的に権威ある学術誌にその成果が報告されています。これはまた、多くの若手研究者がキャリアアップを果たす好循環をもたらせています。教育面では、事業推進者の羽淵教授と山田教授が医学系研究科学務委員長を歴代務め、大学院教育のいっそうの充実を図っています。大学院生の長期海外派遣を支援し、また、国内研究機関との共同研究への大学院生の積極的な参画も奨励しています。医学部のみならず広い専門分野の学部卒業生が、世界レベルの生命科学研究を体感し、学習する環境が整いつつあります。



生体の3大調節系

がんプロフェッショナル養成プラン 北東北における総合的がん専門医療人養成プラン

(実施期間・平成19年度採択～平成23年度)

がんプロフェッショナル養成プランとは？

平成19年4月から施行された「がん対策基本法」には『がん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の医療従事者の養成を図るために必要な施策を講ずるものとする』(第十四条)と明記されています。これに応える形で、文部科学省が『質の高いがん専門医等を養成し得る内容を有する優れたプログラムに対し財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を図ること』を目的として平成19年度から創設した計画が「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

プランの概要

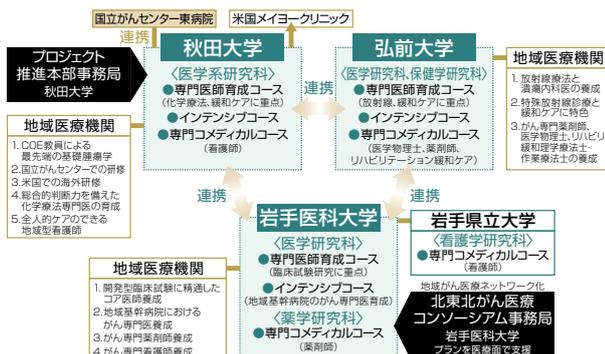
がん死亡率が最も高いといわれている北東北のがん医療の改善や、医療過疎地域を多く抱える北東北地域において総合的がん専門医療人を養成する取組みです。

本プランは、北東北の3医学系研究科と1看護学研究科が中心となり、地域中核医療機関との連携、情報ネットワークの活用、北東北のがん登録の統一、がん診療の精度管理を行うカンファレンスの実施等により、医療過疎地域を多く抱える北東北地域において総合的がん専門医療人を養成します。

各研究科とも、化学療法、放射線療法、緩和ケアの3コースと、臓器別がんの横断的カリキュラムを組み合わせ、大学・関係機関の広域的な協力、地域医療機関の連携、海外研修等を充実させることで、高い臨床能力と研究能力を兼ね備えた総合的・全人的がん専門医等を養成するものです。

〈北東北における総合的がん専門医療人の育成〉

がん多発地域におけるがん医療均てん化をめざす広域医療人育成システムの構築



20年度の活動実績について

20年度は8名の学生を受け入れ、本格的に教育活動を開始しました。

5月には、院内全職員、北東北がんプロ大学院生等を対象にした秋田大学緩和ケア研修会を開催しました。

7月には東京で東北・北東北がんプロフェッショナル養成プラン合同説明会を行いました。

また、19年度に引き続き、北東北がんFDワークショップを開催し、多数の方に参加がありました。

年度末には、がんプロメンバーズサイトを立ち上げ、登録者を募集しております。

詳細につきましてはがんプロホームページ(<http://www.ganpro-kitatohoku.jp/index.html>)をご覧ください。



秋田大学緩和ケア研修会(平成20年5月31日)



東北・北東北がんプロフェッショナル養成プラン合同説明会(平成20年7月4日)



北東北がんプロFDワークショップ(平成21年1月24日)

地域再生人材創出拠点の形成 あきたアーバンマイン技術者養成プログラム

Good Practice Program

(実施期間:平成20年度採択～平成24年度)

地域再生人材創出拠点の 形成プログラムとは？

本プログラムは、大学等有する個性・特色を活かし、将来的な地域産業の活性化や地域の社会ニーズの解決に向け、これらに貢献し得る人材の育成を行うことを目的としています。地域の大学が地元の自治体との連携により「地域の知の拠点」を形成し、地方分散型の多様な人材を創出するシステムの構築を推進していくものです。

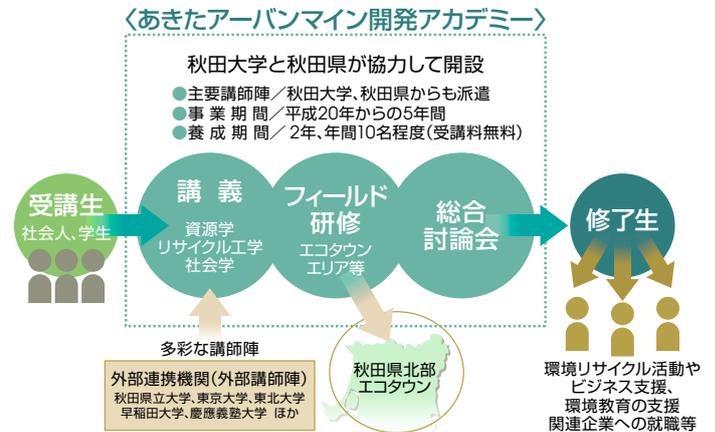
秋田大学は、「あきたアーバンマイン技術者養成プログラム」という課題で、応募数52件の提案から13件の優れた取り組みの一つとして採択されました。

プログラムの概要

まもなく100周年を迎える工学資源学部は、創立以来現在に至るまで、天然資源並びに都市鉱山から有用な資源を回収するための研究開発を継続している知の拠点です。

一方秋田県は、県北部地域においてエコタウン計画を推進する等、環境リサイクル産業の振興を図っており、これらを一層進展させるには、新たな環境リサイクル技術の開発やリサイクルネットワークの構築などを支援できる人材の育成が重要となっています。

このような背景から、秋田大学と秋田県は密接に連携し、さらには県内外の有識者や企業・自治体の協力を受けながら、本プログラムの主要事業として、「あきたアーバンマイン開発アカデミー」を創設し、エネルギー工学を含む資源学を始点に、有用金属の選別・生産技術やリサイクリング技術、バイオマスエネルギーの利用等の化学関連技術、そして県内の情勢を含めた環境学や社会学、経済学などについて講義を行い、環境・リサイクル産業を理解し利用技術に展開することを目的とした、人材養成を行っています。



概要

- (1) 受講生の養成期間:2年間
- (2) 受講生:10名/年程度
企業等における技術者、行政担当者、教職者、市民団体関係者等秋田県在住者、大学生および大学院生
- (3) プログラム構成:
毎月1回土曜日に集中講義、フィールド研修、総合討論会
- (4) 講師陣:
秋田大学、秋田県、秋田県立大学、(財)秋田県資源技術開発機構、DOWAグループ等エコタウン内の企業、東北経済産業局、北海道大学、東北大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、北九州市立大学、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)等
- (5) 受講料、研修費:無料

あきたアーバンマイン 開発アカデミーの教育目標

アカデミーにおいては、以下の知識や能力が受講生の身につくように教育体制を整備しています。

- (1) 環境・リサイクル産業に関わる、工学的基礎知識と設計・解析・評価に関する能力。
- (2) 環境・リサイクル産業に関わる、プロセッシングないし利用技術に関する設計・評価能力。
- (3) 環境・リサイクル産業に関わる、環境影響や環境アセスメントなどに関する知識と評価能力。
- (4) 環境学、社会学、経済学、技術者倫理などについて、地球的視野にたつて、また市民的公共性をもって理解する能力。
- (5) 秋田県内における環境・リサイクル産業に関わる課題について理解して、具体的解法を提案できる能力。
- (6) 技術開発や共同研究テーマの発掘、リサイクル産業への支援、リサイクル・ビジネス振興、環境教育・学習事業への協力などについて方策を提案できる能力。

資源開発人材育成プログラム

Good Practice Program

(実施期間:平成20年度～平成21年度)

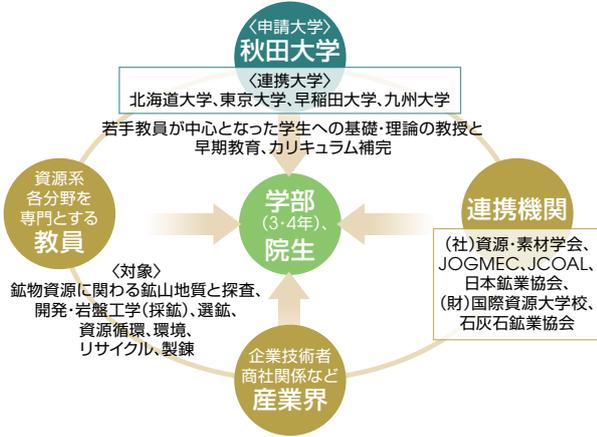
資源開発人材育成プログラムとは？

資源開発を支える次世代の人材育成を目的に、本プログラムでは、秋田大学が申請担当(幹事校)となり、資源系の学科・コース等を有する国内5大学の連携と関係学協会による協力のもと、全国の学生に資源の専門・集中教育を行うことになりました。本プログラムの特徴は、資源分野を学ぶ学生だけでなく若手教員などを全国から招集しオールジャパンとして資源教育にあたることです。

- 申請担当大学/秋田大学
- 共同申請大学(連携大学)/北海道大学、早稲田大学、東京大学、九州大学
- 連携機関/(社)資源・素材学会、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構、(財)石炭エネルギーセンター、日本鉱業協会、(財)国際資源大学校、石灰石鉱業協会

「資源開発人材育成プログラム」

～次世代の資源系技術者・研究者育成を目指す実践的教育支援システム～



〈プログラムの狙い〉

1. 学生の資質向上と早期教育につながる教育連携プログラム
2. 実践的な教育の実施と教員の資質向上を狙った取り組み
3. 資源分野の魅力向上、企業とのパートナー関係強化

(1)「学部生からの大学連携プログラム」

①大学連携資源塾の開講

- 〈講師役〉 連携5大学を中心とする若手教員+企業の若手技術者、シニア教員
- 〈講義〉 原則は集中講義形式
- 〈座学〉 基礎と理論編に重点を置き、企業技術者から数コマ程度、現場および実践を意識した講義を行う
- 〈日数〉 5日間(初年度)
- 〈対象人数〉 原則、連携大学から30人程度

②各大学等への出前講義

(2)「海外実践プログラム」

- ①若手教員の海外研修、学生の海外研修補助

主な活動内容

(1)大学連携資源塾

学部・院生を対象とした資源学全般の集中プログラムを実施しています。平成20年度は平成21年3月2日(月)～3月7日(土)の6日間実施し、左記の連携5大学のほか慶応大学の学部2年生～大学院修士1年生の計34名が参加しました。鉱物資源に係わる地質・探査、資源開発から採鉱・選鉱、製錬、金属リサイクルや環境対策、資源経済に至る資源学全般を学び、企業からの話題提供や情報交換会など、若い人材が秋田大学に一堂に会する貴重な場となりました。平成21年度は8月に東京地区で開講します。

(2)資源学出前講義

大学で学ぶ2年生程度の学生を対象に資源分野のエントリー教育を出前講義として行います。平成20年度は早稲田大学の所准教授が秋田大学でも出前講義を行いました。

(3)海外実践プログラム

資源開発・鉱山の現場を実感し、実践経験やスキルを高めるために学生や若手教員を海外の鉱山・大学・研究所等に派遣します。平成20年度は学生5名、教員5名がチリ、ニューカレドニア、チェコ、オマーンなどを訪れました。



戦略的大学連携支援事業

プロジェクト[4A]-連携による知のベイス構築と「秋田戦略学」の展開-

Good Practice Program

(実施期間:平成20年度採択~平成22年度)

「戦略的大学連携支援事業」とは？

国公立大学間の連携を進めることによって各大学の教育研究資源を有効活用し、地域の知の拠点として教育研究水準の高度化、個性・特色の明確化を図ることを目的として、文部科学省が平成20年度から開始した支援事業です。

「プロジェクト[4A]」とは？

秋田大学を代表校として、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田公立美術工芸短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学、秋田工業高等専門学校が連携して、知の基盤を構築し、地域の高等教育力を高めるとともに、地域の抱える諸課題を戦略的に解決することを目指すプロジェクトです。事業期間は3年ですが、今後10年を見通して活動を展開します。

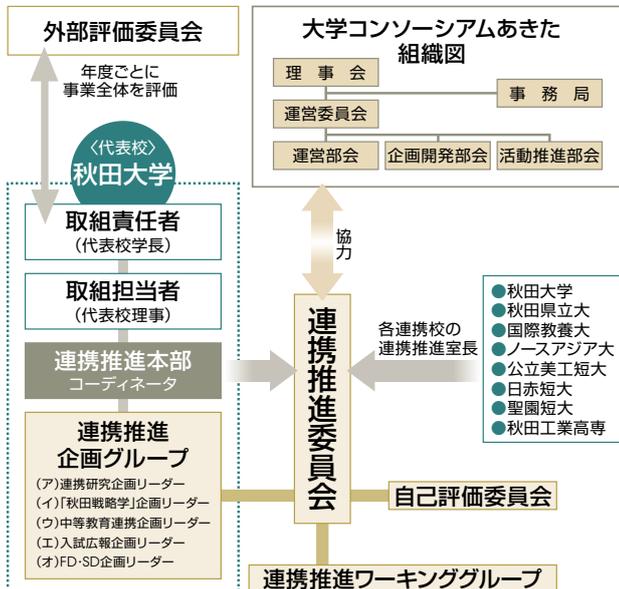
[4A]という語は、秋田(Akita)において、高等教育機関の連携によって展開する学術的(academic)研究に基づく、活動的(active)で現実社会の諸課題の理解・解決に向けた真正の(authentic)学び、という「4つのAを重視した学び」を表す造語です。

4つのAの学び

Academic
Active
Authentic
for Akita

プロジェクト[4A]

〈プロジェクト[4A]組織図〉



取り組みの概要

プロジェクト[4A]は以下の事業を展開します。

1. 秋田を探究する
地域社会の諸問題をテーマとした学際的研究プロジェクトを進めます。
2. 秋田を学ぶ
学際的研究にもとづいて、全連携校から担当教員による連携校共通授業「秋田戦略学」を実施します。
3. 学びをつなぐ
高校生・中学生向け授業の開講など、中等教育と高等教育の連携を図ります。平成21年度からは「単位取得予約型授業」を開設します。
4. 秋田で学ぼう
プロジェクト4Aに参加している大学が展開する高等教育について、オープンキャンパスや大学説明会の共同実施を通して全国に発信します。
5. 質の高い学びの場を
学生理解・学生対応に関する教員および職員研修(FD/SD)を共同で実施し、秋田の高等教育の発展を目指します。

20年度の活動実績

- 平成20年9月17日(水)
連携校学長による協定書調印式実施
 - 平成20年12月6日(土)
特別講演と学長フォーラム実施
 - 平成20年12月14日(日)
「秋田の大学入試説明会 in 東京」実施
 - 平成20年12月
4 研究プロジェクトスタート
- (1)「秋田県の活性化のための調査研究1-都市景観資源、「秋田学」と知的ツーリズムの視点から-」(参加機関:秋田大学、秋田工業高等専門学校、秋田県立大学、秋田公立美術工芸短期大学)
 - (2)「秋田県の活性化のための調査研究2-市街地のにぎわい創出、内陸軸観光資源、国際観光振興の視点から-」(参加機関:国際教養大学、ノースアジア大学、秋田公立美術工芸短期大学)
 - (3)「高齢化社会における居住環境とバリアフリー環境の課題の検討と新型車いすの開発」(参加機関:秋田大学、秋田公立美術工芸短期大学、日本赤十字秋田短期大学、秋田工業高等専門学校)
 - (4)「八郎湖の水質改善をめざした基礎的総合研究-水質改善と地域資源の循環利用をめざして-」(参加機関:秋田県立大学、秋田大学、秋田工業高等専門学校、秋田県健康環境センター)



特別講演と学長フォーラムの様子
(平成20年12月6日)



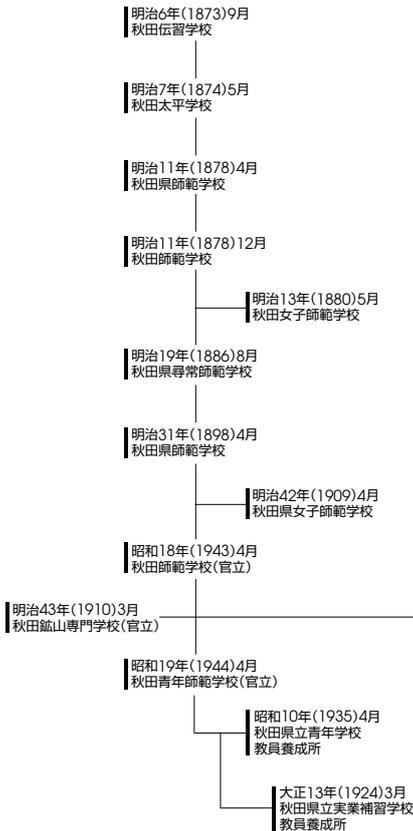
「秋田の大学入試説明会 in 東京」で
秋田大学の説明を受ける高校生
(平成20年12月14日)

〈「プロジェクト4A」ホームページ〉

<http://www.gaku.akita-u.ac.jp/project4a/>

沿革

Historical Sketch



昭和	20年代	40年代	50年代	60年代
昭和24年(1949)5月	秋田大学設置			
		大学院 昭和40年(1965)4月 大学院鉱山学研究所(修士課程)	昭和51年(1976)4月 大学院医学研究科	
	専攻科 昭和29年(1954)4月 鉱山学専攻科	昭和40年(1965)3月廃止 昭和40年(1965)4月 教育専攻科		昭和55年(1980)4月 特殊教育特別専攻科
昭和24年(1949)5月	学芸学部 小学校教員養成課程 中学校教員養成課程	昭和42年(1967)6月 改称・教育学部	昭和43年(1968)4月 養護学校教員養成課程	昭和48年(1973)4月 幼稚園教員養成課程
	昭和26年(1951)4月 附属幼稚園 附属小学校 附属中学校		昭和47年(1972)4月 附属養護学校	昭和52年(1977)4月 附属教育学センター
		昭和45年(1970)4月 医学部 医学科	昭和46年(1971)4月 附属病院 昭和47年(1972)4月 附属看護学校	昭和56年(1981)4月 附属動物実験施設 昭和57年(1982)4月 附属実験実習機器センター
昭和24年(1949)5月	鉱山学部 鉱山学科 治金燃料学科 燃料学科	昭和30年(1955)4月 治金学科 燃料学科	昭和35年(1960)4月 採鉱学科 鉱山地質学科	昭和42年(1967)4月 金属材料学科
	昭和34年(1959)4月 鉱山電気学科	昭和39年(1964)4月 鉱山機械学科 電気工学科	昭和42年(1967)4月 金属材料学科	昭和56年(1981)4月 資源化学工学科
		昭和41年(1966)4月 鉱山土木学科	昭和45年(1970)4月 土木工学科	昭和48年(1973)4月 電子工学科
		昭和40年(1965)4月 附属鉱業博物館	昭和52年(1977)4月 生産機械工学科	
	昭和25年(1950)4月 附属地下資源開発研究所	昭和42年(1967)4月 改称・附属地下資源研究施設		昭和61年(1986)4月 改組・附属資源地学研究施設
昭和24年(1949)	通信教育講座			
			昭和47年(1972)6月 放射性同位元素センター	
昭和24年(1949)5月	附属図書館			
			昭和49年(1974)4月 保健管理センター	

平成

元年 2年 3年 4年 6年 8年 10年 11年 12年 14年 16年 18年 19年 20年 21年

平成11年(1999)
50周年

平成16年(2004)4月
国立大学法人

平成21年(2009)
60周年

平成元年(1989)4月
大学院教育学研究科(修士課程)

平成19年(2007)4月
医学系研究科

教育学研究科
医学系研究科
工学資源学研究科

平成6年(1994)4月
大学院鉱山学研究科(博士課程)

平成14年(2002)4月
改組・工学資源学研究科

平成元年(1989)3月廃止

平成20年(2008)3月廃止

平成10年(1998)4月
改組・教育文化学部

学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程

平成3年(1991)4月
情報科学課程

附属幼稚園

附属小学校

附属中学校

附属養護学校

附属教育実践
研究指導センター

平成12年(2000)4月
改組・附属教育実践総合センター

平成19年(2007)4月
改称・附属特別支援学校

教育文化学部

学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程

附属幼稚園

附属小学校

附属中学校

附属特別支援学校

附属教育実践総合センター

平成4年(1992)3月廃止

平成14年(2002)10月
設置・保健学科

医学部

医学科
保健学科

附属病院

平成16年(2004)3月廃止

平成16年(2004)3月廃止

平成10年(1998)4月
改組・工学資源学部

地球資源学科
環境物質工学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

平成2年(1990)4月
改組
資源・素材工学科
物質工学科
情報工学科

平成3年(1991)4月
改組
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

平成20年(2008)4月
改組・附属環境資源学
生命化学科

工学資源学部

地球資源学科
環境応用化学科
生命化学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

附属鉱業博物館

附属環境資源学研究センター

附属ものづくり創造工学センター

附属地域防災力研究センター

通信教育講座

平成8年(1996)5月
改組・附属素材資源システム研究施設

平成18年(2006)4月
改組・附属環境資源学
研究センター

平成16年(2004)7月
附属ものづくり創造工学
センター

平成18年(2004)1月
附属地域防災力研究
センター

通信教育講座

平成5年(1993)4月
地域共同研究センター

平成19年(2007)11月
産学連携推進機構

昭和64年(1989)1月
情報処理センター

平成12年(2000)4月
サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

平成15年(2003)4月
総合情報処理センター

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

平成16年(2004)4月
バイオサイエンス
教育・研究センター

平成16年(2004)4月
環境安全センター

評価センター

教育推進総合センター

学生支援総合センター

社会貢献推進機構

国際交流推進機構

知的財産本部

産学連携推進機構

総合情報処理センター

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

バイオサイエンス教育・研究センター

放射性同位元素センター

環境安全センター

評価センター

教育推進総合センター

平成21年(2009)4月
教員免許状更新講習推進センター

学生支援総合センター

平成21年(2009)3月廃止

国際交流センター

平成20年(2008)2月
国際交流センター

平成元年(1989)10月
医療技術短期大学部

看護学科
平成2年(1990)4月
理学療法学科
作業療法学科

平成19年(2007)3月廃止

附属図書館

保健管理センター

運営 Management Organization 組織

監事
(2人)
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

経営協議会
(12人)
Management Committee
経営に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事(企画調整・広報担当)
- 理事(総務・財務・施設担当)
- 理事(経営支援担当)〈非常勤〉
- 医学部附属病院長
- 学長指名委員
(学長特別補佐〈評価担当〉)
- 学外委員(6人)

役員会
(6人)
Board of Directors
経営、教学の両面にわたり、
特定の重要事項について、
学長の意思決定に先立ち議決を行う。

- 学長
- 理事(企画調整・広報担当)
- 理事(教育・社会貢献担当)
- 理事(学術研究・産学連携担当)
- 理事(総務・財務・施設担当)
- 理事(経営支援担当)〈非常勤〉

教育研究評議会
(19人)
Education and
Research Council
教育に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事(企画調整・広報担当)
- 理事(教育・社会貢献担当)
- 理事(学術研究・産学連携担当)
- 学長特別補佐(評価担当)
- 教育文化学部長
- 医学系研究科長
- 工学資源学部長
- 附属図書館長
- 医学部附属病院長
- 産学連携推進機構長
- 総合情報処理センター長
- 教育推進主管
- 各学部長等が推薦する
当該学部等の教授(各2人)

学長選考会議 (15人) President Nomination Committee

- 理事(企画調整・広報担当)／理事(教育・社会貢献担当)／理事(学術研究・産学連携担当)
- 理事(総務・財務・施設担当)／理事(経営支援担当)〈非常勤〉
- 学長特別補佐(評価担当)／教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学部長／附属図書館長
- 経営協議会委員のうち国立大学法人秋田大学の役員又は職員以外の者(5人)

部局長等連絡調整会議 (10人)

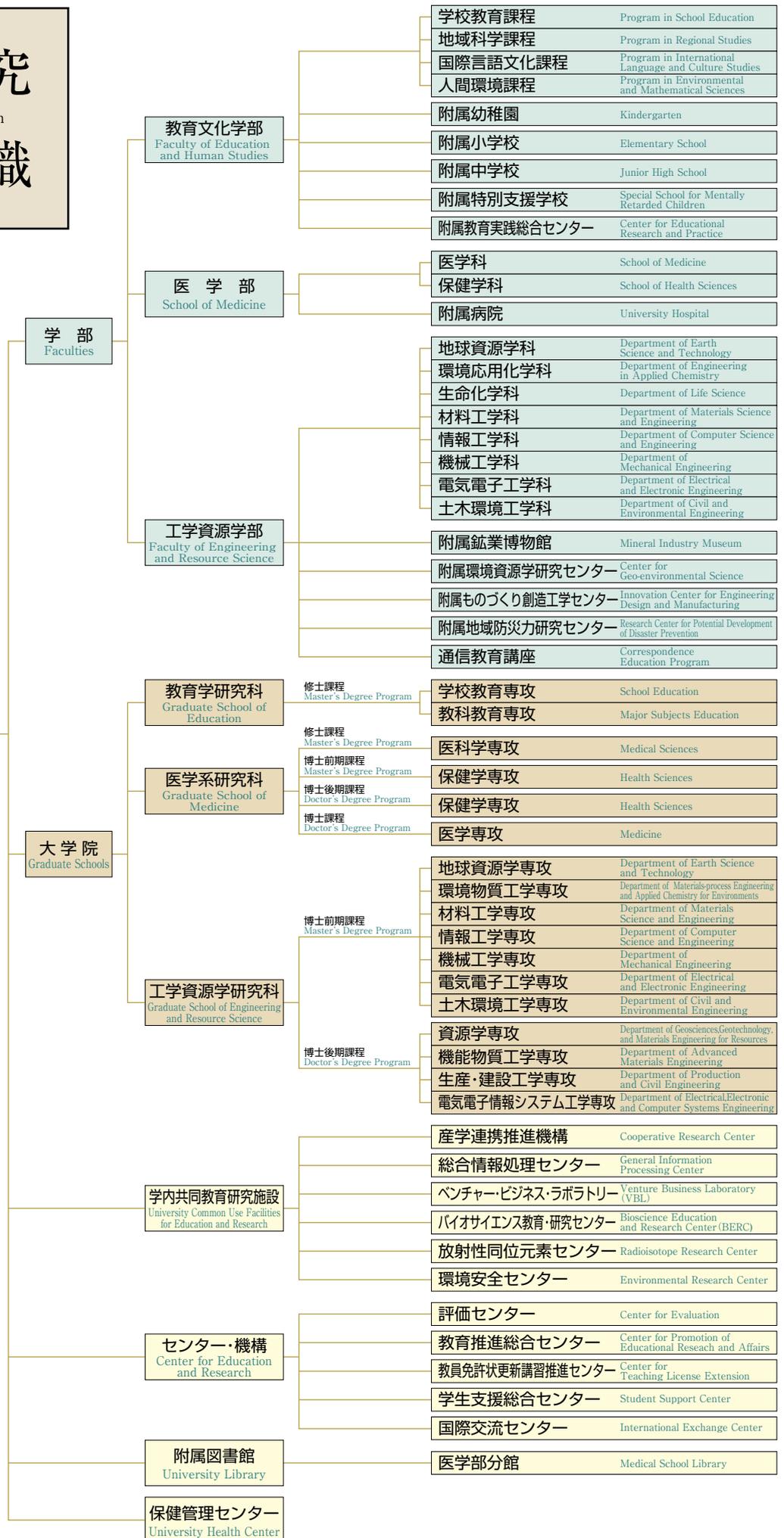
- 学長
- 理事(企画調整・広報担当)／理事(教育・社会貢献担当)／理事(学術研究・産学連携担当)／理事(総務・財務・施設担当)
- 教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学部長／附属図書館長／医学部附属病院長

教育研究

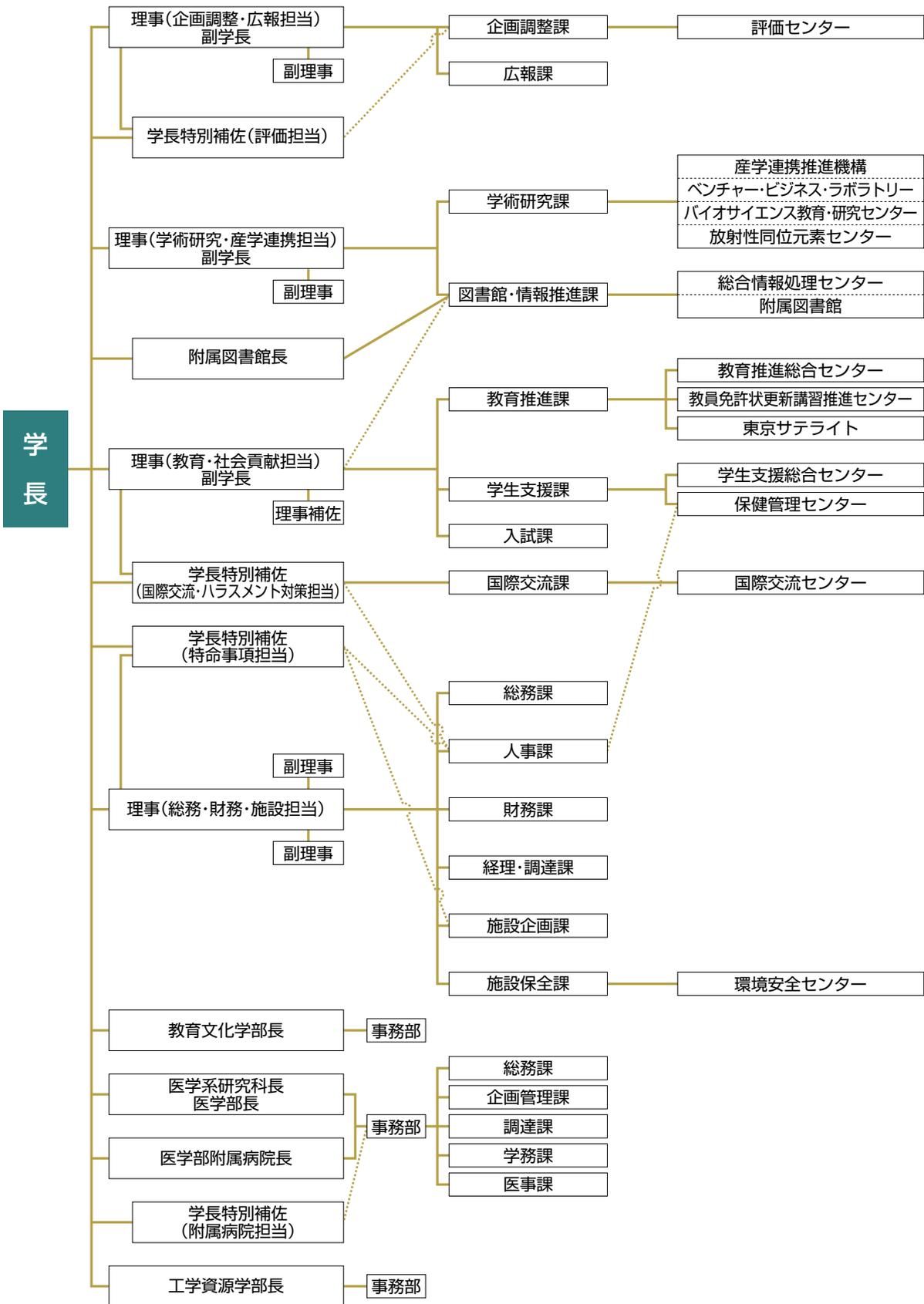
Academic Organization

組織

秋田大学
Akita University



事務 Administrative Organization 組織



役員

Administrative Staff

平成21年6月17日現在

役員

学長	吉村 昇
理事(企画調整・広報担当)・副学長	對馬 達雄
理事(教育・社会貢献担当)・副学長	吉岡 尚文
理事(学術研究・産学連携担当)・副学長	井上 浩
理事(総務・財務・施設担当)	谷川 成美
理事(経営支援担当)(非常勤)	新開 卓
監事(常勤)	渡部 文靖
監事(非常勤)	小林 章

経営協議会

学長	吉村 昇
理事(企画調整・広報担当)・副学長	對馬 達雄
理事(総務・財務・施設担当)	谷川 成美
理事(経営支援担当)(非常勤)	新開 卓
医学部附属病院長	溝井 和夫
学長特別補佐(評価担当)	熊田 亮介
秋田商工会議所会頭	渡邊 靖彦
秋田魁新報社相談役	佐藤 暢男
秋田県医師会会長	小山田 雅
秋田県教育委員会教育長	根岸 均
JSTイノベーションサテライト岩手館長	平山 健一
東京農工大学大学院教授	若林 敬子

教育研究評議会

学長	吉村 昇
理事(企画調整・広報担当)・副学長	對馬 達雄
理事(教育・社会貢献担当)・副学長	吉岡 尚文
理事(学術研究・産学連携担当)・副学長	井上 浩
学長特別補佐(評価担当)	熊田 亮介
教育文化学部長	池村 好道
医学系研究科長	本橋 豊
工学資源学部長	西田 眞
附属図書館長	大好 直
医学部附属病院長	溝井 和夫
産学連携推進機構長	濱田 文男
総合情報処理センター長	中村 雅英
教育推進主管	小川 信明
教育文化学部教授	井上 正鉄
教育文化学部教授	川東 雅樹
医学系研究科教授	荏原 順一
医学系研究科教授	浅沼 義博
工学資源学部教授	砂子田 勝昭
工学資源学部教授	泰松 齊

本部等

副理事(企画調整・広報担当)	松田 栄二
副理事(学術研究・産学連携担当)	田口 公夫
副理事(総務担当)	松田 栄二
副理事(財務・施設担当)	松原 省三
理事補佐(教育・社会貢献担当)	永井 美喜子
企画調整課長	小松 一幸
広報課長	藤澤 均
学術研究課長	熊谷 覚
図書館・情報推進課長	碓子 洋行
教育推進課長	土門 貞三
学生支援課長	永井 美喜子
入試課長	棚井 信良
国際交流課長	石川 勉
総務課長	小山田 享史
人事課長	庄司 幸浩
財務課長	鈴木 康彦
経理・調達課長	高橋 康一
施設企画課長	高橋 勝治
施設保全課長	内藤 哲男

機構・センター等

産学連携推進機構長	濱田 文男
総合情報処理センター長	中村 雅英
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	齊藤 準
バイオサイエンス教育・研究センター長	荏原 順一
放射性同位元素センター長	泰松 齊
環境安全センター長	村田 勝敬
評価センター長	熊田 亮介
教育推進総合センター長	吉岡 尚文
教員免許状更新講習推進センター長	佐藤 修司
学生支援総合センター長	吉岡 尚文
国際交流センター長	田中 俊誠
保健管理センター所長	苗村 育郎
教育推進主管	小川 信明

附属図書館

館長	大好 直
医学部分館長	阿部 寛

教育文化学部

学部長	池村 好道
事務長	三浦 勲
附属幼稚園長	長沼 誠子
附属小学校長	阿部 昇
附属中学校長	長澤 光雄
附属特別支援学校長	大城 英名
附属教育実践総合センター長	石黒 純一

医学系研究科

研究科長	本橋 豊
医学部附属病院長	溝井 和夫
事務部長	波塚 章生
総務課長	小澤 浩
企画管理課長	佐藤 悟
調達課長	間杉 敏行
学務課長	(事務取扱)波塚 章生
医事課長	川村 金蔵

工学資源学部

学部長	西田 眞
事務長	佐藤 博巳
附属鉱業博物館長	佐藤 時幸
附属環境資源学術センター長	中田 真一
附属ものづくり創造工学センター長	土岐 仁
附属地域防災力研究センター長	松富 英夫



教育文化学部 教育学研究科

Faculty of Education and Human Studies
Graduate School of Education



教育文化学部

教育文化学部は、教員養成と地域社会、国際社会、環境関連分野で活躍できる人材の養成を目的とし、4つの課程で構成されています。

学校教育課程 次世代を育てる教員の養成

1. 幅広い社会的視野にたって、子どもの心を理解する柔軟性のある教員
2. 今日の教育的病理を克服し得る指導力・問題解決能力を備えた教員
3. 情報化社会に対応して、情報処理および活用能力を備えた教員
4. 地域的課題を理解し実践できる教員

地域科学課程 地域社会に貢献する人材の養成

1. 高齢化、過疎化、国際化、情報化の現状と課題をとらえ、地域社会の活性化に向けて、企業や行政など多様な分野で活動することができる人材
2. 住民の豊かな生活を保障する地域社会の構築のために、生活者の視点から、高齢化、少子化、過疎化の現状と課題をとらえ、地域活動計画を立案し実践できる人材
3. 地域文化を発見・再評価し、新たな文化資源・環境のあり方やその活用方法を提示できる人材

国際言語文化課程 国際交流に貢献する人材の養成

1. 日本・アジア・欧米各国の文化の交流と相互理解の促進をはかることによって、地域における国際交流に貢献できる人材
2. 環日本海地域の歴史文化と国際関係の理解にたって、当該地域の地域間協力・交流システムづくりに貢献できる人材
3. 海外諸国において、日本文化の深い理解とコミュニケーション能力を基礎として異文化間交流に携わる人材
4. 英、独、仏、露、中、朝鮮語、さらには古典ギリシア語、ラテン語、ヘブライ語の習得により、外国語を活かせる分野で活躍できる人材

人間環境課程 人間生存環境を構築する人材の養成

1. 人間の生活と自然資源・景観とのかかわりを総合的に理解したうえで環境アセスメントを行い、望ましいアメニティを提案することができる人材
2. 人間の生活を支える生物環境資源の調査・分析を行い、それらの資源の持続的利用・管理のための方策を提示できる人材
3. 自然と地域の相互関係を理解したうえで、自然生態系の保全のあり方を提示し得る人材
4. 人間の生存環境を数理的・工学的に理解・処理することを通して、自然環境の急速な変化に対応できる生活防衛システムづくりや情報化社会における人工環境のシステム構築に貢献できる人材

課程	選修	講座
学校教育	教科教育実践	教科教育学 音楽教育 美術教育 スポーツ・健康教育
	障害児教育	障害児教育
	発達科学	発達教育 教育心理学
地域科学	政策科学	政策科学
	生活者科学	生活者科学
	文化環境	文化環境
国際言語文化	日本・アジア文化	日本・アジア文化
	欧米文化	欧米文化
	国際コミュニケーション	国際コミュニケーション
人間環境	自然環境	自然環境
	環境応用	環境情報 基礎数理



教育学研究科

大学院教育学研究科は、平成元年に5専修で創設し、平成9年にすべての教科に対応する11専修を整えました。さらに平成14年に時代の要請を受けて心理教育実践専修を発足しました。本研究科は、21世紀の初等中等教育を担う優れた質の高い教員の養成を目的としており、現職教員の受け入れのほか、海外からの入学も積極的に進めています。また、修了者は学校現場、県教委等で指導的な役割を果たしています。

課程	専攻	専修
修士課程	学校教育専攻	学校教育専修
		心理教育実践専修
	教科教育専攻	国語科教育専修
		社会科教育専修
		数学教育専修
		理科教育専修
		音楽教育専修
		美術教育専修
		保健体育専修
		技術教育専修
		家政教育専修
英語教育専修		

医学系研究科・ 医学部

Graduate School of Medicine
and Faculty of Medicine

医学系研究科

平成21年4月より大学院部局化し、大学院の教育研究を重視する機構改組を行いました。基礎と臨床の研究者が連携協力して、プロジェクト研究を推進することを目指します。

大学院医学系研究科では、最先端の医学・医療を学ぶ向上心と意欲を修得させるとともに、国際的視野に立ち、専攻分野あるいはその隣接領域について自立した研究活動を行い、高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する研究・教育者あるいは高度職業人を養成します。

課程	専攻
博士課程	医学専攻
博士後期課程	保健学専攻
博士前期課程	
修士課程	医科学専攻



医学専攻

医学専攻は、人類の健康・福祉と生命科学の発展に貢献できる国際的視野を備えた研究者を養成し、高度先進医学・医療を推進することにより、地域における医学・医療の中核として役割を担い、医師・医学者を養成することを目的とします。

系	講座	系	講座
病態制御医学系	形態解析学・器官構造学	機能展開医学系	器官・統合生理学
	細胞生物学		心臓血管外科学
	細胞生理学		整形外科
	器官病態学		皮膚科学・形成外科学
	分子機能学・代謝機能学		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	生体防御学		脳神経外科学
	内分泌・代謝・老年内科学		循環器内科学・呼吸器内科学
	感染・免疫アレルギー・病態検査学		情報制御学・実験治療学
	麻酔・蘇生・疼痛管理学		小児科学
	放射線医学		産婦人科学
	眼科学	小児外科学	
	精神科学	法医学	
	微生物学	環境保健学	
	救急・集中治療医学	公衆衛生学	
	腫瘍制御医学系	分子生化学	医科学情報学・国際交流学
分子病態学・腫瘍病態学		薬剤学	
消化器内科学・神経内科学		医療情報学	
血液・腎臓・膠原病内科学		歯科口腔外科学	
消化器外科学		医学教育センター	
呼吸器・乳腺内分泌外科学			
腎泌尿器科学			
臨床腫瘍学			

※脳循環代謝動態学 連携大学院

保健学専攻

保健学専攻は、博士前期課程と博士後期課程を開設しております。豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解と確かな医療技術のもとに、創造性を富む研究によって

保健学の発展に貢献できる研究者、葛藤を持つ学習者に共感し援助できる教育者、高度な知識と技術と倫理性を備えて実践の場で自立して研究活動ができ、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた高度専門職者を育成します。

講座	分野	講座	分野
基礎看護学講座	健康科学分野	地域・老年看護学講座	地域看護学分野
	基礎看護学分野		老年看護学分野
臨床看護学講座	成人看護学分野	理学療法学講座	基礎科学分野
	精神看護学分野		臨床理学療法学分野
母子看護学講座	母性看護学分野	作業療法学講座	基礎科学分野
	小児看護学分野		臨床作業療法学分野

医科学専攻

医科学専攻は、医学関連分野における領域横断的な諸問題の解決に有用な幅広いバックグラウンドを持った人材を養成します。

医学部

医学科

医学科では、医学や関連科学の知識や医療技術を実際に修得した上で、豊かな教養と高い倫理性を身に付け、臨床研修や基礎研究を始めるために確かな意欲と能力を持つ人材を育成することを目標としています。同時に、高度先進医学・医療を推進し、地域社会における医療・福祉の充実に貢献することも目指しています。

平成21年4月に大学院部局化を行い4つの系と1つの協力部門に再編成しました。また、バイオサイエンス教育・研究センターと有機的に連携しながら、教育および研究の充実・発展を図っています。

医学部教育は、大学院教員が兼務する医学教育部が行います。

寄附講座	寄附者
総合地域医療推進学講座	秋田県 ※平成20年10月1日～平成25年3月31日
腎置換医療学講座	アステラス製薬株式会社、中外製薬株式会社、日本化薬株式会社、扶桑薬品工業株式会社、有限会社大沢商事 ※平成20年10月8日～平成25年10月7日

保健学科

保健学科は、看護学専攻・理学療法学専攻・作業療法学専攻の3専攻からなります。

保健学科は豊かな感性と高い教養、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身に付け、国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者、並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成します。

また、教育の礎となり、健康科学に広く関わる知識と技術の発展に資する研究を目指し、社会に貢献します。

工学資源学部 工学資源学研究科

Faculty of Engineering and Resource Science
Graduate School of Engineering and Resource Science



工学資源学部

工学資源学部は、地球環境と調和のとれた資源学と、豊かな人間性を支える工学の発展に寄与できる技術者および研究者の養成を行います。

資源系では地球規模となった資源・環境・エネルギー問題の解決のための教育・研究の発展を図り国際的に活躍できる資源技術者の養成を行います。一方、工学系においては、先端分野・学際分野への展開を継続しながら、地域の課題である高齢化への対応や新たな産業の創出などへ寄与できる教育・研究分野の充実を図り、地域の産業を担う人材の養成を行います。

平成21年には、リサイクルと製錬技術とを融合した資源循環型の技術開発に貢献することを目的に、「リサイクルプロセッシング講座」(寄附講座)を設置しました。

教育と研究の基本的な視点

1. グローバリゼーション時代の資源学への対応
2. 社会の養成に応える人材の養成
3. 地域社会への積極的な貢献

学部の特徴

1. 幅広い入学者の受け入れ
2. 独創性、起業家精神の育成
3. 先端的研究の進展
4. 国際的な資源技術者の養成
5. 地域社会の問題への取り組み



具体的な教育カリキュラムの編成

1. 応用力や創造性を重視した専門教育(創造工房実習、フィールド実習)
2. 社会における科学技術の役割の実習(環境科学、技術者倫理、技術史、鉱業史)
3. 国際性を養う専門教育(海外実習、テクニカルコミュニケーション、外国文献購読)
4. プロポーザル能力の養成(研究プロポーザル)
5. 入学から卒業までの継続性を重視した4年一貫教育(初年次ゼミ)
6. 情報処理能力の養成(情報処理の技法)
7. 職業意識を高める実践教育(インターンシップ)
8. 大学、学部、学科を越えた履修範囲(自由科目、他大学との単位互換)

学 科	講 座
地球資源学科	応用地球科学 地球システム工学
環境応用化学科	素材プロセス工学 環境・素材設計工学 分子機能化学 化学システム学
生命化学科	基礎生命化学 応用生命化学
材料工学科	材料物性学 知能材料学 エネルギー材料学 材料開発工学
情報工学科	人間情報工学 産業情報工学 数値情報工学
機械工学科	機械物理工学 機械ダイナミクス システム設計 ロボティクス・福祉工学
電気電子工学科	電気エネルギー工学 光・電子デバイス工学 知能情報通信工学 制御システム工学
土木環境工学科	福祉環境工学 環境構造工学 地域環境工学

寄附講座	寄附者
リサイクルプロセッシング講座	DOWAホールディングス株式会社 ※平成21年4月1日～平成24年3月31日

工学資源学研究科

大学院工学資源学研究科は、工学資源学部の設立理念に立ち、新しい研究領域を創出するため、学部の学科に対応する前期課程は7専攻とし、新たな理念に基づいた後期課程4専攻としました。

○前期課程各専攻

国際的に活躍する資源専門技術者、環境技術や先端化学技術に貢献する専門技術者、先端機能材料の開発を目指す専門技術者、マルチメディア社会に即応できる専門技術者、人と環境にやさしい機械システムの開発に貢献できる専門技術者、創造的エレクトロニクス専門技術者、ノーマライゼーション理念で社会基盤設計を行う専門技術者の養成。

平成19年4月には「学び直し」の機会を創出し、再チャレンジを目指す若者、女性、高齢者等の有識者、退職者等の幅広い社会人を支援するため、博士前期課程に「再チャレンジ支援プログラム」として、「環境リスクコミュニケーター養成コース」と「テクノマイスター養成コース」を開設。平成20年4月には専門知識を事業・経営に活かしてマネジメント力を発揮できる人材養成のため研究科に「MOTコース」を開設した。

課程	専 攻	講 座
博士前期課程	地球資源学	応用地球科学 地球システム工学
	環境物質工学	素材プロセス工学 分子機能化学 環境・素材設計工学 化学システム学
	材料工学	材料物性学 エネルギー材料学 知能材料学 材料開発工学
	情報工学	人間情報工学 数値情報工学 産業情報工学
	機械工学	機械物理工学 システム設計 機械ダイナミクス ロボティクス・福祉工学
	電気電子工学	電気エネルギー工学 知能情報通信工学 光・電子デバイス工学 制御システム工学
	土木環境工学	福祉環境工学 地域環境工学 環境構造工学

○後期課程各専攻

地球の資源・物質環境を考えた総合的な資源学の体系化、物質に関する広範囲の知識を総合した開発、組織的なものづくりと生活基盤整備、電気電子技術を基盤とした情報技術の開発。

平成19年10月には、国際的に活躍する人材養成のため「英語による特別コース」を開設。

課程	専 攻	講 座
博士後期課程	資源学	資源地球科学 環境資源サイクル工学 資源環境学
	機能物質工学	機能材料工学 環境応用化学
	生産・建設工学	生産システム工学 福祉システム工学 社会基盤工学
	電気電子情報システム工学	電気情報基盤システム工学 電子情報基盤システム工学

教育文化学部附属学校園

- 幼稚園 ○小学校 ○中学校
- 特別支援学校

センター等

- 評価センター ○教育推進総合センター
- 教員免許状更新講習推進センター
- 学生支援総合センター ○総合技術部
- 国際交流センター

附属図書館

鉱業博物館

学内共同教育研究施設等

- 産学連携推進機構 ○総合情報処理センター ○放射性同位元素センター
- 環境安全センター ○ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- バイオサイエンス教育・研究センター ○戸賀臨海実習所 ○乳頭ロッジ

大 学

医学部附属病院

学部附属教育研究施設

- 教育実践総合センター ○鉱業博物館 ○環境資源学研究中心
- ものづくり創造工学センター ○地域防災力研究中心

福利厚生施設等

- 保健管理センター ○大学会館・手形キャンパス
- 学生寮 ○本道会館・本道キャンパス
- 国際交流会館 ○留学生会館

東京サテライト

体育施設等

- 陸上競技場 ○野球場 ○サッカー場 ○ハンドボール場
- 大体育館 ○小体育館 ○柔剣道場 ○弓道場 ○テニスコート ○プール(25m) ○運動場

施設

医学部附属病院

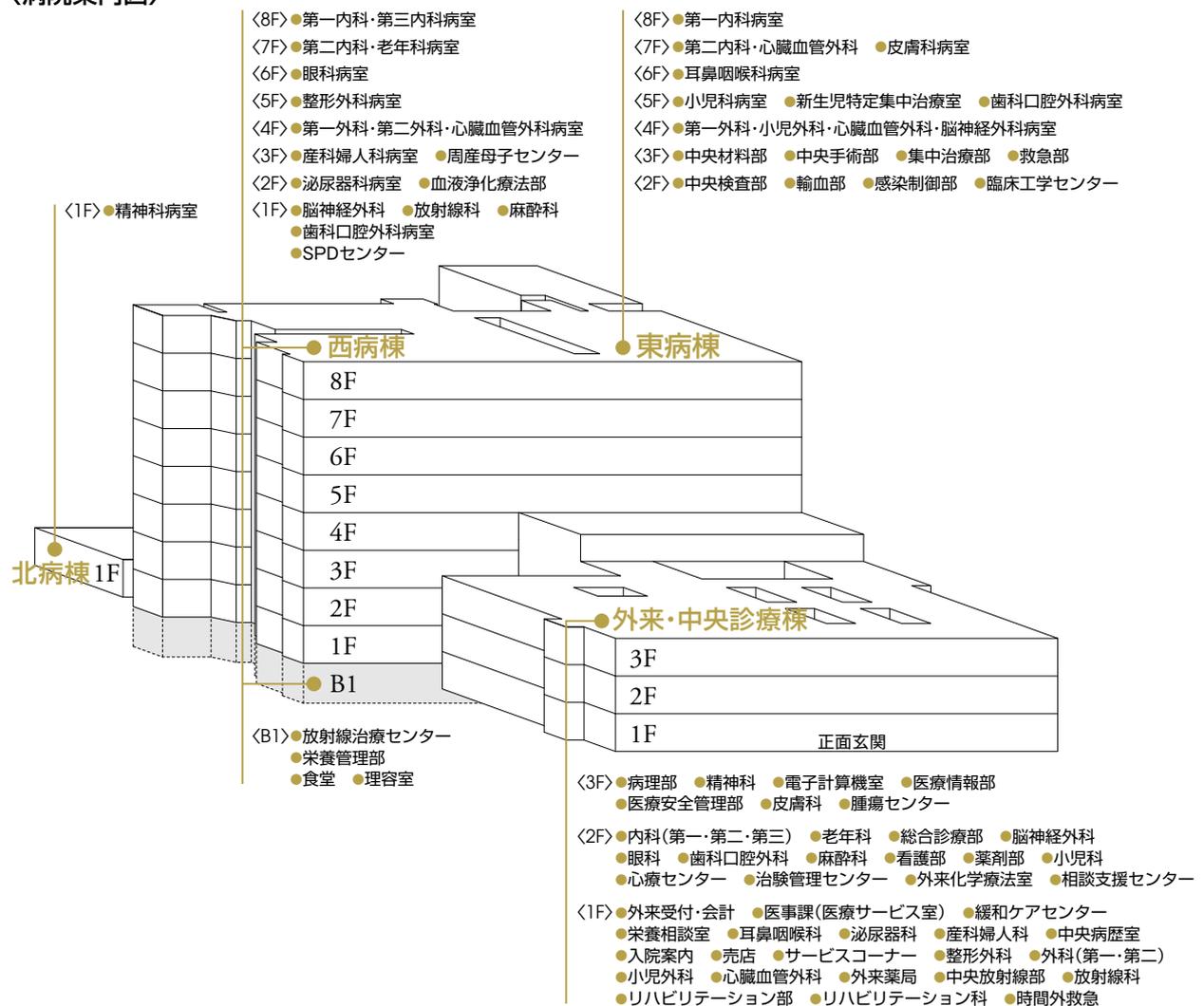


外来・中央診療棟(正面玄関)

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することを通して、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心として役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉



〈診療科別入院および外来患者数〉

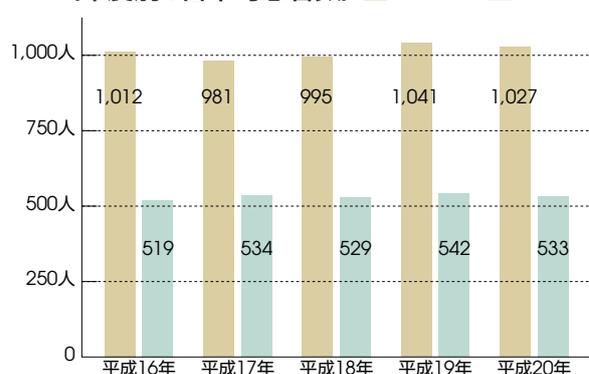
平成20年度

区 分	入 院		外 来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
第一内科	17,936	49	25,782	106
第二内科	17,793	49	22,059	91
第三内科	13,383	37	12,260	50
老年科	3,263	9	15,041	62
第一外科	9,825	27	3,592	15
第二外科	9,886	27	8,369	34
心臓血管外科	10,073	28	1,984	8
脳神経外科	9,150	25	7,047	29
小児外科	3,172	9	2,254	9
小児科	10,884	30	10,475	43
産科婦人科	16,453	45	21,637	89
神経科精神科*	10,316	28	23,608	97
整形外科	13,215	36	16,158	66
皮膚科	4,195	11	16,004	66
泌尿器科	13,939	38	12,667	52
眼 科	9,662	26	15,943	66
耳鼻咽喉科	12,910	35	16,131	66
放射線科	4,631	13	2,533	10
麻酔科	415	1	3,071	13
歯科口腔外科	3,602	10	12,912	53
合 計	194,703	533	249,527	1,027

*平成21年度から診療科名を精神科に変更

〈年度別1日平均患者数〉

■ 外来患者数 ■ 入院患者数



〈中央診療施設等〉

- 中央検査部 ● 中央手術部 ● 中央放射線部
 - 中央材料部 ● 集中治療部 ● 救急部 ● 輸血部
 - リハビリテーション部 ● 医療情報部
 - 血液浄化療法部 ● 中央病歴部
 - 周産母子センター ● 病理部 ● 総合診療部
 - 治験管理センター ● 臨床工学センター
 - 移植検査センター ● 卒後臨床研修センター
 - 医師キャリア形成支援センター
 - 内視鏡・超音波センター ● 遺伝子医療部
 - 腫瘍センター ● 相談支援センター ● 化学療法部
 - 緩和ケアセンター ● 心療センター ● 栄養管理部
-
- 薬剤部 ● 看護部 ● 医療安全管理部 ● 感染制御部



第2病棟(平成21年10月開院予定)

附属図書館

University Library



本館(正面玄関)

●附属図書館は本館(手形キャンパス)と医学部分館(本道キャンパス)があり、図書・雑誌・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と、その蓄積された情報の提供を行っています。

●地域に開かれた図書館として学外の方も気軽に利用できる図書館を目指しています。図書館の閲覧サービスや館外貸出サービスが受けられます。また、平成20年度からは、秋田県立図書館との連携による「秋田県図書館資料横断検索システム」等を活用した貸出サービスやレファレンスサービスの充実を図っています。



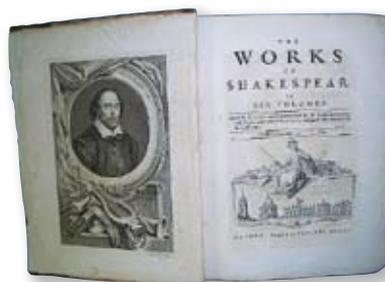
医学部分館情報検索スペース

〈開館時間〉

区分	本館・医学部分館	春季・夏季・冬季 休業期間中
平日	8:30～21:00	8:30～17:00
土・日・祝	10:00～17:00	閉館

●蔵書は本館が約395千冊、医学部分館が約101千冊となっています。附属図書館では次のようなサービスを行い、学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。

- 閲覧サービス
- 貸出サービス
- 文献複写サービス
- 蔵書検索サービス
- 各種文献データベースサービス
- 電子ジャーナル
- 図書館ホームページ



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています。



本館ブラウジングコーナー



本館2階閲覧室

●詳細についてのお問い合わせは

〈本館・利用サービス係〉
電話 / 018-889-2279 E-mail : riyos@lib.akita-u.ac.jp
〈医学部分館・図書係〉
電話 / 018-884-6052 E-mail : ibun@lib.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

教育文化学部附属学校園

Affiliated School



平成21年5月1日現在

区 分	総定員	学級数	現 員							
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
附属幼稚園	2年保育	100	5	—		〈4歳児〉 34		〈5歳児〉 34		68
	3年保育	60		〈3歳児〉 22		〈4歳児〉 21		〈5歳児〉 18		61
附属小学校	720	18	103	105	108	106	101	101	624	
附属中学校	480	12	145	143	153	—			441	
附属 特別支援学校	小学部	18	3	3		4		5		12
	中学部	18	3	4	6	6	—		16	
	高等部	24	3	11	10	11	—		32	



●附属幼稚園



●附属小学校



●附属中学校



●附属特別支援学校

学部附属教育研究施設

Facilities for Education and Research



●教育実践総合センター <教育文化学部>

【目的等】

学習環境および教育臨床等の教育実践に関する総合的研究

【研究部門等】

- 学習環境研究部門
- 教育臨床研究部門
- 臨床心理相談室



●鉱業博物館 <工学資源学部>

【目的等】

- 鉱業に関する研究調査
- 鉱業関係の博物館資料の収集保管および展示

【研究部門等】

- 標本資料／約14,500点
- 模型／約200点



●環境資源学研究センター <工学資源学部>

【目的等】

循環型社会における環境資源学の創成・発展および新素材の機能開発並びにその地球環境の関わりを総合的に研究

【研究部門等】

- 地球環境研究分野
- 資源環境型地域社会形成研究分野
- 環境調和型材料プロセス研究分野
- 生物・工学融合研究分野



●ものづくり創造工学センター <工学資源学部>

【目的等】

- ものづくり教育の推進と創造型エンジニアの育成
- 地域社会への貢献

【研究部門等】

- 創造工学教育部門
- 教育・研究支援部門
- 地域連携・広報部門
- 分析・評価部門



●地域防災力研究センター <工学資源学部>

【目的等】

自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する

【研究部門等】

- 地震災害分野
- 河川災害分野
- 火山災害分野
- 津波災害分野
- 斜面災害分野
- 情報・計画分野

鉱業博物館

Mineral Industry Museum



〈入館案内〉

- 開館時間／9:00～16:00
- 休 館 日／年末年始(12月26日～翌年1月5日)
- 入 館 料／〈個人〉大人250円
〈団体(30人以上)〉大人190円
〈高校生以下〉無料

〈平成21年度鉱業博物館行事〉

- 【前期企画展】「ジオパーク」
〈期間〉7月中旬～9月上旬
- 【後期企画展】「情報工学」
〈期間〉10月中旬～11月下旬
- 【ジュニアサイエンススクール】“地層の観察”
〈期間〉8月上旬(2日間) 〈対象〉小学校高学年～中学生



1階展示室 磁鉄鉱(ポリビア産)



サイエンスボランティアによる案内



エントランスロビー



平成20年度ジュニアサイエンススクール
「川原の石をしらべてみよう」(秋田市)



学内共同教育研究施設等



●産学連携推進機構

【目的等】

大学の優れた研究成果を切れ目なく実用化につなぎ、イノベーション創出や社会への成果還元に資するため、学内外に向けた産学連携の総合支援窓口としてのワンストップサービスにつとめています。

産学連携・共同研究部門と知的財産部門があり、両部門の共同で、研究シーズの発掘・顕在化から産業界等との共同研究・受託研究および研究成果の技術移転まで社会と連携した活動を推進しております。

これらの活動を円滑に進めるため、科学技術相談、技術セミナー開催、研究シーズと地域ニーズとのマッチング活動、知的財産権保護等の産学連携活動をしています。



●総合情報処理センター

【目的等】

261台のネットワークブート型のシンクライアント端末、大規模計算用としての高速演算サーバおよびキャンパスネットワークシステムを運用しています。教職員、大学院生、学部生など誰でも利用ができ、教育、研究等に活用されています。高度化・多様化する情報教育の要求に応えるべく、教育、研究、各種業務ならびに地域への支援を行っています。



●放射性同位元素センター

【目的等】

放射性同位元素は、正しく取り扱えば化学的反応メカニズムなどを解明する上で極めて強力なツールとなります。本センターは、放射性同位元素を使用した研究・教育に対する支援および放射線取扱業務に関する安全管理を目的として運営されています。化学実験室、 -10°C および 4°C 低音実験室、放射能測定室、精密機器測定室、中性子照射室、R1貯蔵室などからなり、より高度な研究環境を提供しています。



●環境安全センター

【目的等】

教育研究および診療に伴い生じる有害物質を含んだ廃液等の処理を行い環境保全に資するため、有害廃液等を無機系廃液、有機系廃液および有害固形廃棄物に区分し、分別収集により、これらの適性処理・処分を行っています。多種・多様な性状を有する廃液等は研究機関特有であるため、処理技術の検討・改善を行い適正処理に努めています。また、学内外において環境科学等に係る教育・実習および共同研究を実施しています。



●ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

【目的等】

現在、IT産業やナノテクノロジーでは、高度な機能性を持つ希少元素が必要不可欠な素材として使用されることから、その資源枯渇の危機が叫ばれています。ラボラトリーでは、平成13年5月に研究棟が完成して以来、「希少元素物質に注目した新リサイクル技術の開発と高度素材設計に関する研究」をプロジェクト課題として、ベンチャー・マインドをもつ創造的な大学院学生、若手研究者の育成を視野にいたれた全学的な教育・研究活動を進めており、新産業の創出を目指しています。



●バイオサイエンス教育・研究センター

【目的等】

これまであった医学部附属動物実験施設・医学部附属実験実習機器センター・医学部R1センターの3つの共同教育研究施設を統合して、大学のみならず地域の研究施設や医療施設、企業の研究者も効率的に利用できる学内共同教育研究施設として平成16年度に設置されました。

ライフサイエンス研究のための最新解析機器の提供、バイオ関連実験サービスの提供、実験動物の適切な管理、放射性同位元素を用いた実験環境の提供などのサービス業務を行っているほか、学内のバイオ関連研究の適正審査、福祉・医療技術の開発・応用研究、新規実験動物の作成・開発研究などの研究活動も同時に展開しています。



●戸賀臨海実習所

【目的等】

学芸学部(現教育文化学部)創立90周年並びに手形地区統合記念事業として、卒業生、教職員等の協力で昭和39年12月に男鹿半島戸賀湾の一角に建設された施設で、研修室や50人収容の宿泊室などを整備し、男鹿半島の自然、地質、生物、人文科学等の調査の基地として活用できるだけでなく、学生の研修および課外活動並びに職員の研修および福利厚生に資することを目的としています。



●乳頭ロッジ

【目的等】

本学学生の研修・課外活動、職員の研修および福利厚生施設として、平成8年11月に設置された施設です。同施設は、十和田八幡平国立公園の南部、乳頭温泉郷(秘湯全国の温泉100選)の一角にあり、周辺は高山植物の宝庫といわれる秋田駒ヶ岳、深度日本一の田沢湖など、また乳頭キャンプ場、たざわ湖スキー場など豊かな自然環境に恵まれ、四季を通じて多様な活動が可能なおとこです。

センター等

評価センター

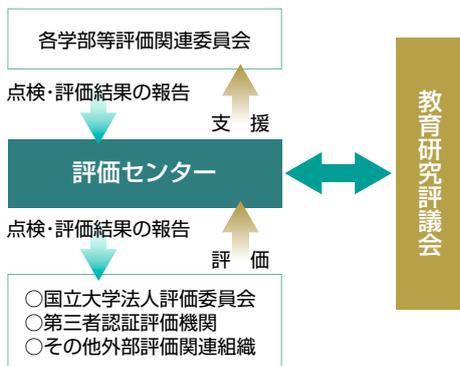
<http://www.akita-u.ac.jp/hyouka/index.html>

〈目的〉

1. 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援
2. 評価とそのシステムについての研究・開発

体制および業務

- 秋田大学の自己点検・評価活動の支援
- 秋田大学の中期目標・中期計画の実施および評価についての対応
- 外部評価および第三者評価に対応した学内調整や取りまとめ、報告書の作成
- 学内の教育・研究活動、自己点検・評価活動の成果や経緯を示す資料の収集・整理・蓄積、情報の公開
- 「大学評価」についての方法やシステムの開発
- 評価活動に関わる広報活動
- 評価活動に関わる研究会・ワークショップの開催
- 評価活動の結果を各部署に還元し、各部署と連携をとりながら、教育・研究、管理運営の改善に向けた支援・研究活動を実施



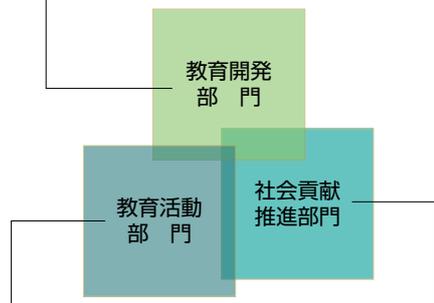
教育推進総合センター

<http://www.gaku.akita-u.ac.jp/kcenter/>

〈目的〉

1. 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進
2. 教養基礎教育および専門教育の調査・研究・開発による改善・充実
3. 社会・地域に貢献することおよび生涯学習社会に対応した諸事業を継続的に行う

- 教養基礎教育を中心とする教育内容・教育方針・教育環境に関する調査・研究・開発・評価
- 教育活動に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)活動



- 教養基礎教育を中心とする大学教育の実施・運営、カリキュラムの企画・立案
- 履修上の教育支援
- 社会・地域に貢献する事業の企画・立案・実施
- 生涯学習社会に対応した諸事業の企画・立案・実施

教員免許状更新講習推進センター

<http://gppts.cerp.akita-u.ac.jp/menkyo/index.htm>

〈目的〉

1. 教員免許状更新講習の企画・実施
2. 県内の教育委員会、大学等諸機関との連携

業務

- 企画、立案、調整および実施
- 講習内容および実施方法の改善
- 広報活動
- 秋田県内の大学および短期大学並びに教育委員会等関係機関との連携



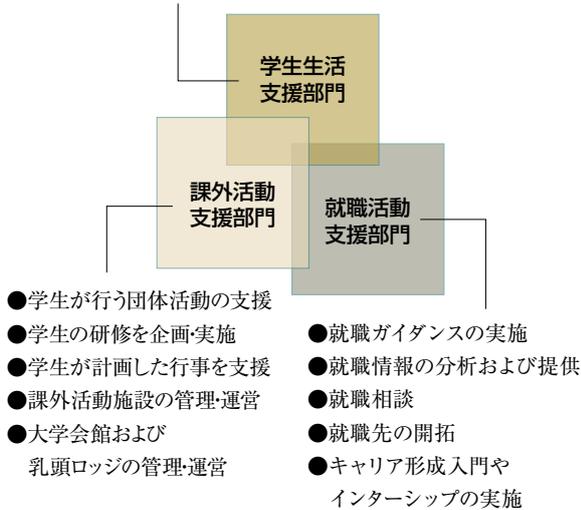
学生支援総合センター

<http://www.gaku.akita-u.ac.jp/gcenter/>

〈目的〉

1. 種々の生活相談および授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援
2. 大学祭等の課外活動支援および課外活動施設の整備・充実の推進
3. 就職ガイダンスの実施および就職情報提供等の就職活動支援

- 学生相談およびメンタルヘルス相談
- 授業料等の免除および猶予
- 学園だより等の編集
- 奨学金
- 学生寮 ●学生表彰



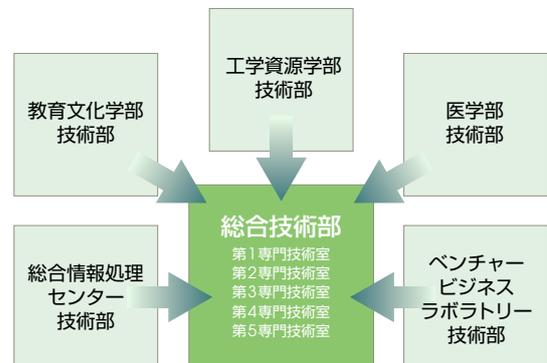
総合技術部

〈目的〉

1. 教育研究活動の技術支援を全学的に推進
2. 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力および資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

業務

- 各部局技術部並びに技術系職員に関わる中期計画の作成
- 総合技術部の全学的な研修の企画・実施
- 専門技術に関する情報収集・発信
- 専門技術の向上・研鑽
- 技術相談および部局間調整等
- その他総合技術部の目的を達成するために必要な事項



組織

- 第1専門技術室 …… 制作・操作技術系
- 第2専門技術室 …… 測定・分析技術系
- 第3専門技術室 …… 生物・生体技術系
- 第4専門技術室 …… 情報技術系
- 第5専門技術室 …… 環境技術系

国際交流センター

<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/>

〈目的〉

1. 国際交流に関する企画・広報活動
2. 国際学術交流の推進
3. 国際教育交流の推進

- 国際化戦略策定
- 広報および地域の国際化支援
- 国際交流協定校の拡充

2つの活動の柱と業務



福利厚生施設等

Welfare Facilities



健康診断

●保健管理センター

- 定期健康診断 / 新入生、卒業・修了年次生、医学部(全学年) ……4月初旬～中旬
- 2・3年次(教育文化・工学資源学部) ……5月中旬
- 健康相談 / 内科の健康相談 ……毎日(午後)
- 悩み事、心の健康相談 ……毎日(午後)
- 眼科、耳鼻咽喉科、婦人科の健康相談 ……毎月1回
- 応急処置 ● 健康診断証明書の発行



手形キャンパス内の
大会館(クレール)

●大会館・手形キャンパス

- 開館時間 / 平日8:30～20:00、土曜日11:30～13:30(食堂のみ)
- 食堂(700席) ● 食品・弁当コーナー
- 書籍・文具コーナー ● 喫茶室(12席)
- アメニティーコーナー(自由に談話し憩うための場)
- 研修室(3室)、和室(2室) ● アルバイトセンター



●本道会館・本道キャンパス

- 開館時間 / 平日9:00～22:00
- 食堂(110席) ● 売店
- 研修室(実習室)(60席) ● 談話室(30席)
- 会議室(大会議室・小会議室) ● 和室



手形寮

●学生寮

区分	手形寮 (女子)	本道寮 (女子)	北光寮 (工学資源 学部男子)
面積	745㎡	1,121㎡	3,460㎡
居室形態	個室	個室	2人部屋
定員	40人	31人	108人



●国際交流会館

- 居室 / 単身室(外国人留学生用10室、外国人研究者用5室)、夫婦室(外国人研究者用3室)、家族室(外国人研究者用2室)
- 入居対象者 / ・本学に在学する外国人留学生
・本学において教育研究に従事する外国人研究者およびその配偶者・子女
・その他館長が適当と認めたる者



●留学生会館

- 居室 / 単身室(27室)、夫婦室(3室)
- 入居対象者 / ・本学に在学する外国人留学生およびその配偶者
・その他館長が必要と認めたる者

体育施設等

Sports Facilities

施設	面積			備考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637㎡	} 20,909㎡	—	400m / 6コース、メイン / 8コース
野球場	20,378㎡		—	—
サッカー場	陸上競技場と併用	陸上競技場と併用	—	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、ラグビー、アーチェリー、準硬式野球)
ハンドボール場	(1,200㎡)	—	—	陸上競技場に含む
大体育館	2,591㎡	1,079㎡	3,588㎡	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、柔道、剣道、合気道(本道地区はバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、サロントフットボール)
小体育館	650㎡	—	—	体操、卓球、空手道
柔剣道場(武道場)	—	—	373㎡	柔道、剣道
弓道場	149㎡	—	—	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238㎡	(5面)3,614㎡	—	—
プール(25m)	800㎡	—	—	—
運動場	—	—	14,923㎡	—



体育館



野球場

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進等、教育・研究、社会貢献活動の周知・発展を図るため、首都圏における情報収集・発信、広報・広聴、連絡調整、交渉等を機動的に行う拠点として、「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供

- 入試広報、入試説明会、各学校への情報発信、訪問活動の拠点

2. 産学官連携活動の支援

- 共同研究、科学技術相談の窓口
- 学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム・学会・研究会などの学術会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

3. 社会貢献活動の支援

- 講演会・セミナーなどの開催

4. 就職活動の支援

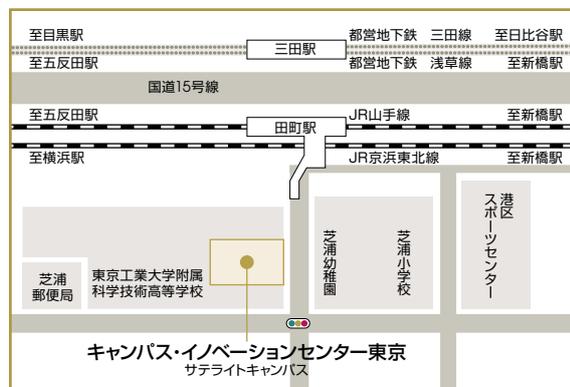
- 企業からの求人の申込
- 在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援

- 同窓会への大学情報等の提供

- **所在地** 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター東京 6階 604オフィス(20㎡)
- **電話** 03-5440-9104(FAX兼用)
- **ホームページ**
<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/general/satellite.html>

〈キャンパス・イノベーションセンター東京周辺マップ〉



キャンパス・イノベーションセンター東京



東京サテライトオフィス



共用スペース



工学資源学部通信教育講座

Education by Correspondence Course

通信教育講座は、国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育です。8コースで構成されており、18歳以上で高卒程度の学力があれば、添削指導などを通して系統立てて学習することができます。また、1科目だけの科目履修生にもなれます。なお、受講申込みは随時受け付けています。

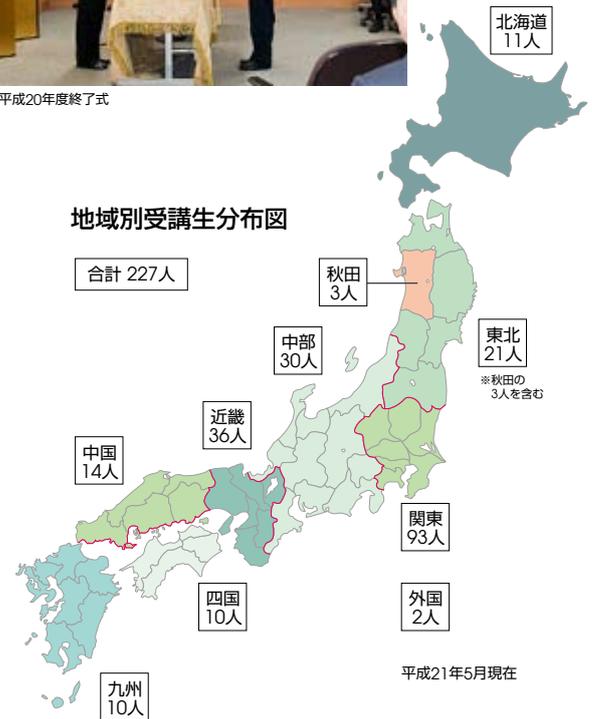
コース・受講生数および修了生数

(昭和25年4月～平成21年5月現在)

課 程	現受講生数	修了生
地球科学コース	44	94
資源開発コース	34	31
材料工学基礎コース	28	19
材料工学専門コース	3	12
電気・電子基礎コース	68	66
電気系専門コース	6	18
電子系専門コース	8	15
一般科学技術コース	36	30
採鉱・地質課程	—	457
冶金・金属材料課程	—	501
電気・電子課程	—	399
計	227	1,642



平成20年度終了式



スクーリングの風景

就職支援活動

Career Development

1. 学生支援総合センターでの取り組み

様々な面から学生生活を支援する学生支援総合センターには、就職活動支援部門があります。就職活動支援部門には就職・キャリア形成推進室も設置され、学生が現在から未来へとキャリア形成できるように、以下のような支援事業を企画・実施しています。

- 学生への就職情報の提供、各種就職に関わる相談
- 企業や公務員の就職を希望する
学生のための就職ガイダンスの開催
- 学生と企業間における問題の解決支援
- 企業からの情報収集と企業への大学PR
- ジョブフェア(大学主催による企業説明会)の開催
- 1年次から始まるキャリア形成の授業や
インターンシップの開設



就職ガイダンス



教育文化学部就職情報室

2. 各学部の就職支援体制

教育文化学部

就職情報室を設置し、学生が活用できるよう、就職に関するデータを収集整理しています。また、試験対策、エントリーシートや志望動機の書き方、面接を受ける際の注意点等について学部の就職委員や就職情報室のスタッフが常時相談できる体制を取っています。

工学資源学部

各学科に就職指導担当教授を置き、学生の就職指導に当たっています。また、就職活動アドバイザー室を設置し、学生が経験豊富なアドバイザーに就職に関する一切の事柄に関して相談できる体制を取っています。

医学部

医学科

平成16年から臨床研修必修化制度が始まり、医師免許取得後2年間は、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目指して、各科のスーパーローテーション研修が義務付けられました。本学科では必修化が始まる2年前から附属病院内に卒後臨床研修センターを設置して具体的な準備を進めてきました。同センターでは、研修プログラムの作成やマッチングに関わる事務手続きの一切を行っています。また、研修に関する説明会は年数回行います。

保健学科

看護学専攻では、4年次のチュートリアル担当教員が学生個々の進路の相談・支援にあたっています。また、就職・進学支援担当教員を3名配置し、就職施設の選択や病院見学会、採用試験情報の提供など、学生の進路決定を支援する体制を取っています。

また、理学療法学専攻、作業療法学専攻では、4年次の担任を中心として就職・進学に関する相談を受ける体制を整えています。

平成21年度 大学開放事業

University Open Programs (Academic Year of 2009)

オープンキャンパス

平成21年8月8日(土)

オープンキャンパスでは、各学部が様々なプログラムを用意しています。自分の目や耳で確かめることにより、秋田大学を「実感」していただきたいと思いますので、多数のご参加をお待ちしています。主な内容は、入学試験の説明、学部・学科・課程等の概要説明、模擬授業、研究室・施設見学などです。



地域アカデミー

平成21年9月28日(月)～10月2日(金)

全国から受講生を募集し、秋田でしか学ぶことのできないテーマで講義を行う「地域アカデミー」を2008年度から実施しています。今年度は秋田の地下資源、温泉、食文化、歴史、方言等をテーマにした講義を行います。

公開講座

生涯学習機会の提供の一環として、本学の学習資源を有効に活用し様々なテーマで公開講座を開講しています。今年度開講の講座は54ページおよび秋田大学HPをご覧ください。

子ども見学デー

平成21年8月19日(水)

毎年夏休みに、小・中学生とその保護者の方を対象にした「秋田大学子ども見学デー」を実施しています。学長室の見学や研究室での実験、図書館の見学など、普段なかなか見る機会のない大学の施設の見学や様々な体験を通じて、大学に対する関心を深めてもらうことを目的としています。



小・中学生等の大学訪問受入

総合学習や職場訪問等の一環としての小・中学生の大学訪問や、PTA研修等を随時受け入れております。職員が学内を案内したり質問に答えたりしながら、秋田大学を紹介します。また、要望があれば、研究室を訪問し教員や学生へインタビューすることも可能です。



平成21年度 主な課外行事

Main Extracurricular Events (Academic Year of 2009)

第44回今日歩大会 5月30日(土)・31日(日)

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して、大学まで約40キロの道のりを走(踏)破するもので、例年学生・教職員および一般市民500人ほどが参加して行われる本学の名物行事です。



第60回 東北地区大学体育大会

6月～11月

東北地区の国・公・私立の48大学による体育大会で、男女合わせて30種目の競技が行われます。平成20年度からは東北各県で分担して大会を運営することになりました。秋田県では水泳の部(6/13,14)とラグビーフットボールの部(6/26～28)が開催されます。



サークルリーダー研修会 9月29日(火)

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED(自動体外式除細動器)の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。



大学祭 10月24日(土)・25日(日)

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。



全学駅伝競争大会 11月7日(土)

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。





資料編

- 学生の定員・現員(学部／大学院)
- 入学志願者・入学状況
- 出身高校所在地別在学状況
- 卒業生・修了者数
- 学位授与数
- 日本学生支援機構奨学生
- 卒業生等就職状況
- 外国人留学生数
- 外国人研究員等
- 国際交流協定校
- 平成20年度学生表彰受賞者
- 役員数
- 教職員数
- 平成21年度予算
- 外部資金受入状況
- 平成21年度科学研究費補助金採択状況
- 土地・建物
- 公開講座
- 刊行物一覧
- アクセス
- 各所在地・連絡先一覧
- 手形地区施設配置図
- 本道地区施設配置図
- 保戸野地区施設配置図

学生の定員・現員

〈学部〉

平成21年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現 員						計	
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
教育文化学部	学校教育課程	100	400	106	108	121	113	/	/	448	
	地域科学課程	65	260	66	70	72	72			280	
	国際言語文化課程	65	260	66	66	81	80			293	
	人間環境課程	60	240	65	63	67	67			262	
	小 計	290	1,160	303	307	341	332			1,283	
医学部	医学科	(5)110	615	110	116	94	105	95	103	623	
	保健学科	(14)106	452	108	109	126	115	/	/	458	
	小 計	(19)216	1,067	218	225	220	220			95	103
工学資源学部	地球資源学科	60	240	68	63	59	63			/	/
環境物質工学科	※1	150	11	77	80	168					
環境応用化学科	55	110	62	58	-	-	120				
生命化学科	32	64	35	33	-	-	68				
材料工学科	60	240	72	65	66	59	262				
情報工学科	50	200	65	60	62	51	238				
機械工学科	77	314	94	95	99	89	377				
電気電子工学科	75	310	87	95	103	99	384				
土木環境工学科	51	212	57	52	69	54	232				
各学科共通	(22)	44									
小 計	(22)460	1,884	540	532	535	495	2,102				
合 計	(41)966	4,111	1,061	1,064	1,096	1,047	95	103	4,466		

※()内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

平成21年5月1日現在

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員		計
				1年次	2年次	
教育学研究科	学校教育専攻	13	26	13	14	27
	教科教育専攻	31	62	17	20	37
	計	44	88	30	34	64

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員				計			
				1年次	2年次	修 士 課 程					
医学系研究科	医科学専攻	5	10	3	5	/	/	8			
	保健学専攻	※3	12		21			21			
	小 計	5	22	3	26			29			
	医学系研究科	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 前 期 課 程		/	/	計		
		保健学専攻	12	12	1年次	2年次			14	-	14
専 攻		入学定員	収容定員	博 士 後 期 課 程					計		
医学系研究科	保健学専攻	3	3	1年次	2年次	3年次	4	-	4		
	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 課 程				計			
	医学専攻	30	90	1年次	2年次	3年次	4年次	33	33	22	-
医学研究科	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 課 程				計			
	構造機能系専攻	※2	56	1年次	2年次	3年次	4年次	0	0		
	病理病態系専攻			1	1	1	1				
	社会医学系専攻			2	2	2	2				
	内科系専攻			20	20	20	20				
	外科系専攻			23	23	23	23				
	小 計			46	46	46	46				
	医学第一系専攻	※1		1年次	2年次	3年次	4年次	0	0		
医学第二系専攻	0			0	0	0					
医学第三系専攻	1			1	1	1					
小 計			1	1	1	1					
計	50	183					182				

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員			計					
				1年次	2年次	3年次						
工学資源学 研究科	地球資源学専攻	18	36	17	15	/	/	32				
	環境物質工学専攻	24	48	34	26			60				
	材料工学専攻	18	36	25	14			39				
	情報工学専攻	16	32	10	13			23				
	機械工学専攻	24	48	29	22			51				
	電気電子工学専攻	26	52	27	31			58				
	土木環境工学専攻	12	24	9	7			16				
	小 計	138	276	151	128			279				
	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 後 期 課 程				計				
	資源学専攻	4	12	1年次	2年次			3年次	7	2	4	13
	機能物質工学専攻	4	12	4	3			9	16			
生産・建設工学専攻	4	12	2	3	0	5						
電気電子情報 システム工学専攻	4	12	2	2	8	12						
小 計	16	48	15	10	21	46						
計	154	324				325						
合 計	248	595				571						

入学志願者・入学状況

〈学部〉

平成21年度

区 分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	290	656	903	1,559	135	167	302	5.38
医学部	216	357	477	834	93	123	216	3.86
工学資源学部	460	1,634	296	1,930	428	68	496	4.20

※外国人留学生及び編入生は除く。

〈大学院〉

平成21年度

区 分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率	
		男	女	計	男	女	計		
教育学研究科(修士課程)	44	20	32	52	12	18	30	1.18	
医学系 研究科	(修士課程) 医科学専攻	5	2	3	5	2	1	3	1.00
	(博士前期課程) 保健学専攻	12	2	14	16	2	12	14	1.33
	(博士後期課程) 保健学専攻	30	23	10	33	23	10	33	1.10
	(博士課程) 医学専攻	3	2	3	5	2	2	4	1.67
工学資源学研究科(博士前期課程)	138	150	18	168	133	16	149	1.22	
工学資源学研究科(博士後期課程)	16	10	3	13	10	3	13	0.81	

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く。 ※工学資源学研究科(博士前期課程)には、再チャレンジ支援特別選抜も含む。

出身高校所在地別在学状況

〈学生総数(学部学生)〉

平成21年5月1日現在

	人数	%	
北海道	111	2.5%	
東北 3,020(68.6%)	青森県	197	4.5%
	岩手県	396	9.0%
	秋田県	1,946	44.2%
	宮城県	237	5.4%
	山形県	139	3.2%
	福島県	105	2.4%
関東	542	12.3%	
中部	560	12.7%	
近畿	56	1.3%	
中国	61	1.4%	
四国	22	0.5%	
九州	30	0.7%	
学生総数	4,402		

※学生総数は、国内の高校出身者の合計である。

〈医学部〉

平成21年5月1日現在

	人数	%	
北海道	57	5.3%	
東北 647(59.9%)	青森	23	2.1%
	岩手	80	7.4%
	秋田	437	40.4%
	宮城	69	6.4%
	山形	21	1.9%
	福島	17	1.6%
関東	217	20.1%	
中部	107	9.9%	
中国	16	1.5%	
近畿	21	1.9%	
四国	7	0.6%	
九州	9	0.8%	
計	1,081		

〈教育文化学部〉

平成21年5月1日現在

	人数	%	
北海道	14	1.1%	
東北 1,100(86.2%)	青森	53	4.2%
	岩手	101	7.9%
	秋田	794	62.2%
	宮城	59	4.6%
	山形	57	4.5%
	福島	36	2.8%
関東	70	5.5%	
中部	72	5.6%	
中国	10	0.8%	
近畿	7	0.5%	
四国	1	0.1%	
九州	3	0.2%	
計	1,277		

〈工学資源学部〉

平成21年5月1日現在

	人数	%	
北海道	40	2.0%	
東北 1,273(62.2%)	青森	121	5.9%
	岩手	215	10.5%
	秋田	715	35.0%
	宮城	109	5.3%
	山形	61	3.0%
	福島	52	2.5%
関東	255	12.5%	
中部	381	18.6%	
中国	35	1.7%	
近畿	28	1.4%	
四国	14	0.7%	
九州	18	0.9%	
計	2,044		

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学部			大学院			専攻科					
区分	20年度	累計	区分	20年度	累計	区分	20年度	累計			
教育文化学部	312	2,352	教育学研究科	31	654	教育専攻		78			
教育学部		14,519				特殊教育特別専攻		212			
医学部	216	3,558	医学系研究科	21	21	鉱山学専攻科		58			
			医学研究科	33	748						
工学資源学部	467	3,634	工学資源学研究科(博士前期課程)	155	825						
			工学資源学研究科(博士後期課程)	15	46						
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科(修士課程)	-	1,270						
			鉱山学研究科(博士前期課程)	-	1,012						
			鉱山学研究科(博士後期課程)	-	123						
計	995	38,585	計	255	4,699				計		348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止 ※教育専攻科…平成元年3月廃止 ※鉱山学研究科(修士課程)…平成9年3月廃止
 ※教育学部…平成10年4月教育文化学部へ改組・改称 ※鉱山学部…平成10年鉱山学部資源学部へ改組・改称
 ※鉱山学研究科…平成14年4月鉱山資源学研究科へ改組・改称 ※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止

〈医療技術短期大学部〉

区分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

学位授与数

平成21年5月1日現在

区分		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	累計
教育学研究科	修士(教育学)	35	32	34	28	28	651
	修士(医科学)	-	-	-	-	5	5
医学系研究科	修士(看護学)	-	-	-	-	8	8
	修士(リハビリテーション科学)	-	-	-	-	8	8
	小計	-	-	-	-	21	21
医学研究科	博士(医学)(課程)	37	30	29	28	33	748
	博士(医学)(論文)	9	11	7	4	3	581
	小計	46	41	36	32	36	1,329
工学資源学研究科	修士(工学)	140	136	123	141	154	815
	修士(資源学)	1	2	2	2	1	10
	博士(工学)(課程)	9	7	5	9	15	45
	博士(資源学)(課程)	0	1	0	0	0	1
	博士(工学)(論文)	0	2	3	0	0	5
	博士(資源学)(論文)	0	0	1	0	0	1
小計	150	148	134	152	170	877	
鉱山学研究科	修士(工学)	1	0	0	0	0	2,252
	修士(資源学)	0	0	0	0	0	30
	博士(工学)(課程)	4	0	0	0	0	117
	博士(資源学)(課程)	0	0	0	0	0	6
	博士(工学)(論文)	7	0	0	0	0	31
小計	12	0	0	0	0	2,436	
合計		243	221	204	212	255	5,314

奨学金 支援機構 日本学生

〈平成21年度〉

平成21年6月1日現在

区分		第一種	第二種	計	学生数	対学生比(%)
学部	教育文化学部	194	340	534	1,283	41.6%
	医学部	145	213	358	1,081	33.1%
	工学資源学部	254	542	796	2,102	37.9%
小計		593	1,095	1,688	4,466	37.8%
大学院	修士・博士前期課程	104	57	161	386	41.7%
	博士・博士後期課程	12	1	13	185	7.0%
	小計	116	58	174	571	30.5%
合計		709	1,153	1,862	5,037	37.0%

卒業生等就職状況

区 分	卒業生数	進学者数	就職者数		産業別就職者数																										
			県内	県外	教 員																	公務員			その他						
					農林水産	鉱 業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食・宿泊	医療・福祉	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高等・大学等	特別支援学校	教員の計	その他教育学習支援業		複合サービス業	サービス業	国 家	地 方	公務員の計	
学 部	教育文化学部	312	28	253		-	-	3	11	-	27	10	22	40	2	6	3	4	28	24	4	-	10	70	7	2	17	8	25	33	31
				107	146																										
	医学部	216	2	209		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	208	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
				89	120																										
工学資源学部	467	155	286		1	4	39	141	5	39	8	4	3	-	-	2	-	-	-	1	-	-	1	3	-	15	2	19	21	26	
			50	236																											
小 計	995	185	748		1	4	42	152	5	66	18	26	44	2	6	213	4	28	24	5	-	10	71	10	2	32	10	44	54	62	
			246	502																											
大 学 院	教育学研究科	31	1	26		1	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	8	2	3	-	3	16	2	-	-	-	3	3	4
				19	7																										
	医学系研究科(修士課程)	21	2	17		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
				16	1																										
	医学研究科	33		32		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
			29	3																											
工学資源学研究科	170	5	157		-	5	9	83	12	17	7	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	2	-	14	1	5	6	8		
			20	137																											
小 計	255	8	232		1	5	10	83	12	18	8	-	-	-	-	50	-	8	2	3	2	3	18	4	-	14	1	8	9	15	
			84	148																											
合 計	1250	193	980		2	9	52	235	17	84	26	26	44	2	6	263	4	36	26	8	2	13	89	14	2	46	11	52	63	77	
			330	650																											



平成21年5月1日現在

外国人留学生数

	学部学生						小計	大学院学生						小計	短期留学生		合計		
	教育文化学部		医学部		工学資源学部			教育学研究科		医学系研究科		工学資源学研究科			国費	私費		国費	私費
	国費	私費	国費	私費	国費	私費		国費	私費	国費	私費	国費	私費						
中国	-	-	-	-	-	22	-	22	-	3	3	2	1	10	4	15	1	11	53
韓国	-	3	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26	31
マレーシア	-	-	-	-	-	26	-	26	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	27
ベトナム	-	-	-	-	-	12	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
モンゴル	-	1	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	4
台湾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3
タイ	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	3
インドネシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	2
ミャンマー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
ブラジル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1
パキスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1
バングラデシュ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1
パプアニューギニア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
ガーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
南アフリカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
計	-	4	-	1	-	62	-	67	-	3	4	3	5	17	9	23	3	40	142

※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示す。 ※「短期留学生」とは研究生、科目等履修生など正規生を除くすべての留学生を示す。

外国人研究員等

〈外国人研究員数〉 平成20年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学部	ネパール	1
	トルコ共和国	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	ドイツ	1

〈非常勤研究員数〉 平成20年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学部	ベネズエラ	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中国	5
	チリ	1
	パプアニューギニア	1

〈外国人客員研究員数〉 平成20年度受入実績

部局名	国・地域	人数
医学系研究科・医学部	中国	1
	ベラルーシ	1
	スロバキア	1
工学資源学部	中国	2
	オランダ	1
	韓国	1



国際交流協定校

〈大学間協定(9カ国等21大学)〉

平成21年5月1日現在

国・地域名	大学名	締結年月日
中国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
	中国医科大学	平成元年10月 6日
	中南大学	平成16年 8月24日
	遼寧工程技術大学	平成17年 4月20日
	大連民族学院	平成17年 6月27日
	蘭州大学	平成17年 8月 1日
	新疆医科大学	平成18年 2月20日
	吉林大学	平成19年 2月 6日
東北大学	平成19年 8月 9日	
オーストラリア	グリフィス大学	平成 6年 6月29日
ベラルーシ	ベラルーシ医科大学	平成 8年 1月22日
アメリカ	セント・クラウド州立大学	平成 8年 7月24日
韓国	ハンバット大学校	平成13年 6月 8日
	圓光大学校	平成19年10月12日
	江源大学校	平成20年 3月24日
ニュージーランド	オークランド工科大学	平成16年 3月17日
台湾	龍華科技大学	平成17年 7月15日
	国立台北科技大学	平成17年 7月18日
オランダ	トエンテ大学	平成19年10月23日
ベトナム	ハノイ工科大学	平成20年12月 2日
	ハノイ交通・通信大学	平成20年12月 3日

〈部局間協定(8カ国14学部等)〉

平成21年5月1日現在

部局名	国・地域名	大学名	締結年月日	
医学系研究科・医学部	中国	中国衛生部北京医院	平成 7年11月14日	
		華中科技大学同済医学院	平成17年 6月 1日	
工学資源学部	イタリア	カリアリ大学	平成20年 2月13日	
	アメリカ	モンタナ鉱物工科大学	昭和57年 6月24日	
		ミズーリ科学技術大学	平成12年12月18日	
	中国	清華大学精密機器与機械学系	平成19年 3月 1日	
		清華大学化学系	平成20年 1月17日	
	タイ	チェンマイ大学工学部	平成11年 7月12日	
		チェンマイ大学理学部	平成11年 7月12日	
	ザンビア	ザンビア大学鉱山学部	平成15年 1月20日	
		ザンビア大学工学部	平成15年 3月12日	
	チュニジア	スファックス大学工学部	平成15年12月18日	
	ドイツ	フライベルグ大学	平成18年 2月22日	
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	韓国	国立忠南大学先端磁性材料研究所	平成17年11月29日



平成20年度学生表彰受賞者

〈学術研究活動〉

賞	氏名	所属	業績内容
優秀賞	関 啓 亮	工学資源学部 機械工学科3年	平成20年度パテントコンテスト(主催 文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館)において、応募総数248件内大学部門64件中他の6件とともに「特許出願支援対象者」に選考された
奨励賞	小林 研太	教育文化学部 学校教育課程4年	第82回国展彫刻部において入選
奨励賞	最上 絵里花	教育文化学部 学校教育課程4年	第13回秋田県青少年音楽コンクール声楽部門において金賞を受賞
奨励賞	山崎 湖衣子	教育文化学部 学校教育課程2年	第13回秋田県青少年音楽コンクール声楽部門において優秀伴奏賞を受賞
奨励賞	荒 川 亮	工学資源学研究科 博士後期課程1年 生産・建設工学専攻	(社)日本機械学会M&M2008材料力学カンファレンス材料力学部門「優秀講演表彰」受賞 演題:「ひずみ応答を用いたモード形状計測に基づくはり構造の損傷推定」
奨励賞	佐藤 伸明	工学資源学研究科 博士前期課程2年 地球資源学専攻	石油技術協会春季講演会において、地質探鉱部門「探鉱技術委員会奨励賞」受賞 演題:「秋田県五城目地域および男鹿地域における新第三紀/第四紀境界」
奨励賞	小 舘 達	工学資源学研究科 博士前期課程2年 電気電子工学専攻	2008年電子情報通信学会ソサエティ大会(全国大会) 「エレクトロニクスソサエティ学生奨励賞」受賞 演題:「C-6-1真空蒸着法によるサファイアおよびガラス基板上へのCdTe薄膜の作製とその諸特性」

※副賞は、優秀賞5万円、奨励賞2万円とする。

〈課外活動〉

賞	氏名・団体名	所属	大会名	種目/成績
優秀賞(個人)	飯田 哲也	教育学研究科 教科教育専攻2年	第38回全日本実業家柔道個人選手権大会	男子60キログラム級第3位
優秀賞(個人)	森谷 麻衣子	医学部保健学科4年	第63回国民体育大会弓道競技	成年女子秋田県・遠的第5位入賞
優秀賞(個人)	菅原 純子	医学部保健学科3年	第67回全日本医歯薬獣医科大学対抗陸上競技選手権大会	女子走幅跳優勝
奨励賞(団体)	柔道部		第50回全国国立大学柔道優勝大会	第3位
奨励賞(団体)	医学部 ハンドボール部		第51回東日本医科学生総合体育大会ハンドボール競技	優 勝
奨励賞(団体)	医学部 剣道部		第51回東日本医科学生総合体育大会剣道競技	女子団体優勝
奨励賞(個人)	近藤 翔太	教育文化学部 学校教育課程4年	第59回東北地区大学総合体育大会陸上競技	男子110mハードル優勝
奨励賞(個人)	本間 敬一	教育文化学部 学校教育課程4年	第61回東北学生陸上競技対校選手権大会	男子三段跳優勝
奨励賞(個人)	宮 島 淳	教育文化学部 学校教育課程4年	第27回東北学生柔道体重別選手権大会	男子90キログラム級優勝
奨励賞(個人)	安保 有由里	教育文化学部 学校教育課程2年	第59回東北地区大学総合体育大会陸上競技	女子砲丸投優勝
奨励賞(個人)	津田 夏紀 井上 佳奈	医学部医学科5年 医学部医学科1年	第51回東日本医科学生総合体育大会卓球競技	女子ダブルス優勝

※副賞は、優秀賞5万円、奨励賞2万円とする。

〈社会活動〉

賞	氏名・団体名	所属	業績内容
優秀賞	高橋 歩惟	教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修4年	第21回秋田船方節全国大会において優勝
奨励賞	和田 努	医学部医学科6年	4年次から附属病院入院患者に慰問コンサートを実施 秋田魁新聞において「ピアノで患者に勇気」と題して紹介された
奨励賞(団体)	A U P		The Akita University Postを発行し、また、秋田元氣プロジェクトにおいて、別冊「Kulo」を発行し各メディアにおいて紹介され本学の名誉を高めた

※副賞は、優秀賞5万円、奨励賞2万円とする。

役員数

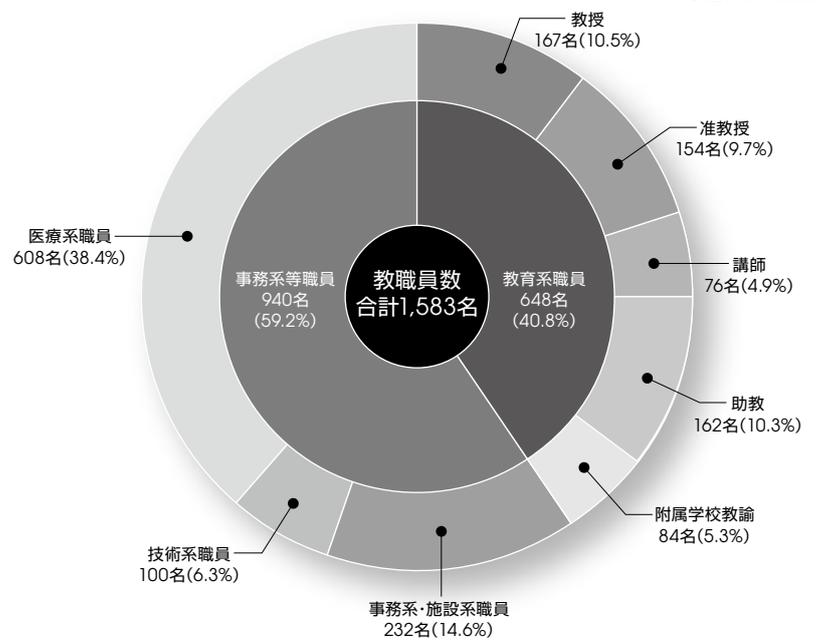
平成21年5月1日現在

区分	学長	理事	監事	計
学長	1			1
理事		5 (1)		5 (1)
監事			2 (1)	2 (1)
計	1	5 (1)	2 (1)	8 (2)

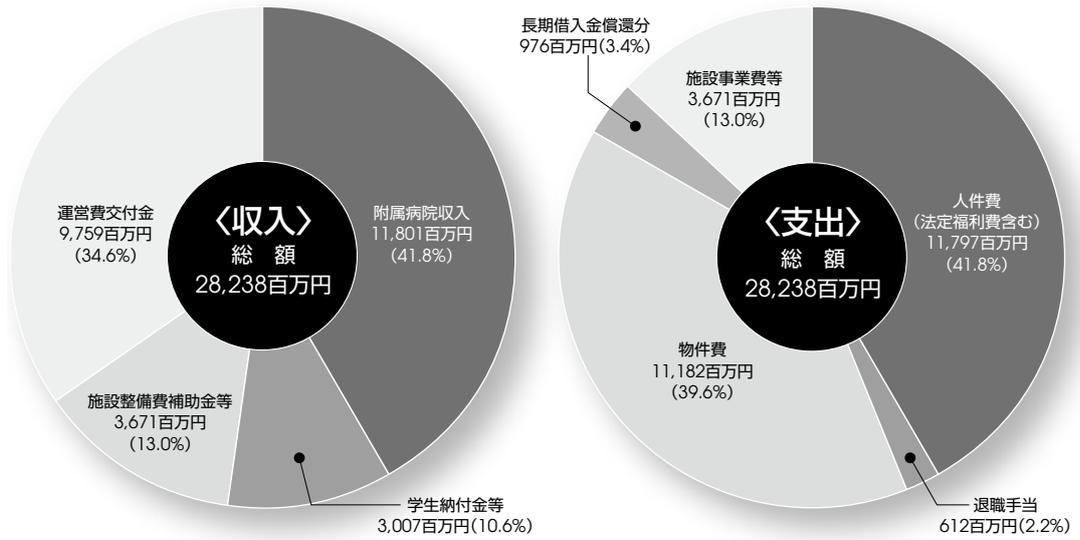
※()内の数は非常勤で内数

教職員数

平成21年5月1日現在



平成21年度予算



※金額は平成21年度予算額であり、上記収入および支出には産学連携等研究費および寄附金に係る経費は含まない。

外部資金 受入状況

単位:千円(継続分を含む)

名称	平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	46	45,700	56	61,810	59	77,934
受託研究	57	170,009	77	245,914	73	276,786
奨学寄附金	781	424,225	810	451,989	830	485,359
寄附講座	-	-	-	-	2	38,300
合計	884	639,934	943	759,713	964	878,379

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金を含まない。

平成21年度科学研究費 補助金採択状況

単位:千円 平成21年4月内定時

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
特定領域研究	5	38,000	-	38,000
新学術領域研究(研究課題提案型)	2	13,300	3,990	17,290
若手研究(A)	2	15,000	4,500	19,500
若手研究(B)	50	64,700	19,410	84,110
基盤研究(B)	14	58,300	17,490	75,790
基盤研究(C)	77	91,300	27,390	118,690
挑戦的萌芽研究	5	6,200	-	6,200
若手研究(スタートアップ)	3	3,600	1,080	4,680
研究成果公開促進費(学術図書)	1	1,600	-	1,600
奨励研究	15	8,210	-	8,210
合計	174	300,210	73,860	374,070

平成21年4月1日現在

土地・建物

区 分		建物 延床面積	土 地	
手形地区	本 部	7,889㎡	196,697㎡	
	教育文化学部	学部		21,456㎡
		附属教育実践総合センター		539㎡
	工学資源学部	学部		30,243㎡
		附属鉱業博物館		3,835㎡
		附属環境資源学研究センター		2,975㎡
	附属図書館	4,129㎡		
	保健管理センター	428㎡		
	産学連携推進機構	1,131㎡		
	総合研究棟	4,266㎡		
	総合情報処理センター	957㎡		
	放射性同位元素センター	338㎡		
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	2,878㎡		
	大会館	3,040㎡		
	体育関係施設	3,827㎡		
課外活動施設	1,395㎡			
小 計	89,326㎡			
本道地区	医学部	35,513㎡	168,218㎡	
	医学部附属病院	42,647㎡		
	附属図書館医学部分館	1,717㎡		
	体育関係施設	1,079㎡		
	バイオサイエンス教育・研究センター	7,359㎡		
	課外活動施設	396㎡		
	看護師宿舎・本道寮(女子)	2,997㎡		
	職員宿舎(糠塚)	5,197㎡		
小 計	96,905㎡			
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園	1,212㎡	68,807㎡	
	教育文化学部附属小学校	7,680㎡		
	教育文化学部附属中学校	7,562㎡		
	教育文化学部附属特別支援学校	3,304㎡		
	小 計	19,758㎡		
その他	寄宿舍 (手形寮(女子)、北光寮、留学生会館、国際交流会館)	6,069㎡	26,795㎡	
	職員宿舎 (休下町、城下町、新栄町、金砂町他)	6,413㎡		
	その他	1,701㎡		
	小 計	14,183㎡		
合 計		220,172㎡	460,517㎡	

公開講座

〈平成20年度実施〉

	講座名	内 容	開催時期	対象者	参加者数	担当の学部
1	近世の日本音楽 —粹と人情の娯楽世界— (全6回)	近世・江戸時代に、庶民主体で発展した文化の中で音楽がどのように展開したかについて講義した。	6月7日(土)～7月19日(土) ※6月28日(土)をのぞく	一般市民	20	教育文化学部
2	電気電子工学の世界 (全5回)	身近なエレクトロニクス技術の原理や、技術発展について講義し、電気電子工学の進化のスピードを実感できる機会とした。	6月20日(金)～7月16日(水) ※最終のみ水曜日に実施	一般市民	10	工学資源学部
3	健康と生活を考える —秋田でよりよく生きるために— (全4回)	食生活や運動、秋田県の医療・福祉の現状、心の健康等、様々なテーマで「健康と生活」を考える機会とした。	9月27日(土)～10月18日(土)	一般市民	13	医学部 保健学科
4	東アジアの文化と社会 (全10回)	中国古典文学研究、中国思想史研究、中国歴史研究、書学、朝鮮研究という各分野の視点から東アジアの文化の特質と社会の実像に迫った。	10月7日(火)～12月9日(火)	一般市民	19	教育文化学部
5	総合自殺予防学インテンシブコース (全5回)	現場で自殺予防に関わっている実務の専門家を対象に、自殺総合対策の現状と今後の展望を理解し、現場での対策推進に役立てることを目的とした。	10月10日(金)～11月14日(金) ※10月31日(金)をのぞく	保健師 行政担当者 サポーター	29	医学部 医学科
6	『文学』は何を食べてきたのか？ —英・米・露文学に見る食生活と文化— (全7回)	イギリス、アメリカ、ロシア文学に描かれた食生活に注目し、作者が何を食べ、何を考えたのか、「文学的グルメガイド」について講義をした。	11月5日(水)～12月17日(水)	一般市民	12	教育文化学部
7	長寿社会における「老い」と「病」を考える —明るい人生を過ごすために— (全3回)	「老い」の歴史的アプローチ及び「病」と「健康」の社会的アプローチにより長寿社会について講義した。	11月20日(木)～12月4日(木)	一般市民	5	教育文化学部

〈平成21年度計画〉

	講座名	開催日程	開催時間	会場	募集人員	受講料
1	高校生・社会人のための声楽講座 —学習方法と歌唱表現—(前期)	5月10日・31日、6月14日・28日、 7月19日、8月2日・9日 日曜日・計7回	13:30～15:00	教育文化学部 2号館140教室	15	3,500円
2	ウィリアム・ホガースの絵画を読む —18世紀英国の絵画と社会—	6月4日(木)～7月2日(木) 毎週木曜日・計5回	18:30～20:00	カレッジプラザ	30	2,500円
3	近現代の日本音楽 —近代化と国際化の狭間で—	6月6日(土)・13日(土)・21日(日)・27日(土)、 7月4日(土)・12日(日) 計6回	14:00～16:00	教育文化学部 3号館318教室	40	3,000円
4	健康生活最前線！ —保健学からの挑戦—	9月26日(土)～10月17日(土) 毎週土曜日・計4日・8回(1日2回)	13:30～16:20	医学部保健学科	30	4,000円
5	地球を調べ、資源を考える	9月26日(土) 1日・4コマ	8:30～17:00	工学資源学部 及び男鹿半島周辺の 野外調査フィールド	30	2,000円
6	総合自殺予防学インテンシブコース	10月2日・9日・16日、11月6日・13日 金曜日・計5回	15:00～17:00	カレッジプラザ	30	2,500円
7	高校生・社会人のための声楽講座 —学習方法と歌唱表現—(後期)	10月18日、11月15日・29日、12月13日、 平成22年1月10日・31日、2月21日 日曜日・計7回	13:30～15:00	教育文化学部 2号館140教室	15	3,500円
8	中世ヨーロッパの世界 —キリスト教会は私たちに 何を残してきたのか?—	11月11日(水)～12月16日(水) 毎週水曜日・計6回	18:00～19:30	カレッジプラザ	30	3,000円
9	東アジアの文化と社会(仮)	未定	未定	未定	未定	未定

刊行物一覽

担 当	刊行物等名	発行回数/年	発行時期
評価センター	評価センター年報・研究紀要	1回	3月
広報課	秋田大学概要	1回	6月
	秋田大学概要(ダイジェスト版)	1回	7月
	秋田大学広報誌「Aprire(アプリーレ)」	4回	4月・7月・ 10月・1月
	The Akita University Post	10回程	
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	VBL年報	1回	4月
総合情報処理センター	秋田大学総合情報処理センター広報	2回	10月・3月
附属図書館	図書館だより	1回	10月
	秋田大学情報探索ガイドブック	1回	3月
教育推進総合センター	秋田大学教養基礎教育研究年報	1回	3月
	教育推進総合センターフォーラム	2回	9月12月
学生支援総合センター	秋田大学学園だより	2回	4月・11月
	キャンパスライフ	1回	4月
保健管理センター	保健管理概要	1回	12月
入試課	秋田大学入学案内	1回	5月
国際交流センター	秋田大学案内(英語版)	不定期	
	秋田大学概要リーフレット(英語版・中国語版)	不定期	
	留学案内(英語版・中国語版・韓国語版)	1回	7月
	あきた留学生交流	1回	3月
施設企画課	秋田大学環境報告書※HP上で公表	1回	9月
環境安全センター	秋田大学環境安全センター報	1回	4月
教育文化学部	秋田大学教育文化学部案内	1回	4月
	秋田大学教育文化学部案内(英語版)	不定期	
	秋田大学教育文化学部研究紀要 (教育学、自然科学、人文科学・社会科学)	1回	3月
附属教育実践総合センター	教育実践研究紀要	1回	5月
	臨床心理相談研究	1回	3月
医学系研究科・医学部	秋田大学大学院医学系研究科・医学部 医学部附属病院 概要	1回	7月
	秋田大学医学部保健学科案内	1回	6月
	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要	2回	11月・3月
附属病院	秋大病院ネットワーク	2回	10月・3月
工学資源学部	工学資源学部・大学院工学資源学研究科概要	1回	6月
	学部案内ERA [Engineering Resource Science Akita University]	1回	4月
	秋田大学工学資源学部研究報告	1回	10月
	TEXNE(通信教育講座機関誌)	1回	3月
附属鉱業博物館	鉱業博物館	1回	3月

アクセス

Access



＜秋田までのアクセス＞

平成21年4月現在

東京から	羽田空港—秋田空港(1時間5分) 秋田新幹線「こまち」 東京駅—秋田駅(約4時間)
名古屋から	名古屋(小牧)空港—秋田空港(1時間5分) 中部国際空港—秋田空港(1時間15分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港—秋田空港(1時間20分)
札幌から	新千歳空港—秋田空港(55分)
ソウルから	仁川国際空港—秋田空港(2時間15分)

秋田空港～ 秋田駅間 リムジンバス	秋田空港—秋田駅【西口①番のりば】(40分) ※毎日17便運行 ＜高速道路ノストップ＞ 秋田空港—秋田駅【東口④番のりば】(25分) ※毎日3便運行
-------------------------	--

＜秋田駅からのアクセス＞

平成21年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅 バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形地区	手形山大学病院線	西口④番	秋田大学前(10分) 下車→徒歩約1分
本道地区	●秋田駅東口より徒歩約15分(約1.3km)		
	手形山大学病院線	西口④番	大学病院前(20分) 下車→徒歩約1分
	下北手線	西口⑬番	
	赤沼線		
	太平線		
松崎団地線	東口①番		
駅東線		東口②番	
保戸野地区	神田旭野線	西口③番	原の町(15分) 下車→徒歩約3分
	神田土崎線		
	添川線		



各所在地・連絡先一覧

Address and Telephone Number

〈手形地区〉

名 称	所在地	電話番号
総務課総務係（総合案内）	〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号	018-889-2207
評価センター	〃	018-889-2937
附属図書館	〃	018-889-2273
保健管理センター	〃	018-889-2286
産学連携推進機構	〃	018-889-2712
総合情報処理センター	〃	018-889-2499
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	〃	018-889-3040
放射性同位元素センター	〃	—
国際交流センター	〃	018-889-2856
教育推進総合センター	〃	018-889-3193
教員免許状更新講習推進センター	〃	018-889-3205
社会貢献推進室	〃	018-889-2270
学生支援総合センター	〃	018-889-2265
教育文化学部 総務係	〃	018-889-2504
教育文化学部 附属教育実践総合センター	〃	018-889-2700
工学資源学部 総務係	〃	018-889-2305
工学資源学部 附属鉱業博物館	〒010-8502 秋田市手形字大沢28番地の2号	018-889-2461
工学資源学部 附属地域防災力研究センター	〃	—
工学資源学部 附属環境資源学術研究センター	〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号	018-889-2460
工学資源学部 附属ものづくり創造工学センター	〃	018-889-2806



手形地区

〈本道地区〉

名 称	所在地	電話番号
医学部（総合案内）	〒010-8543 秋田市本道1丁目1の1	018-833-1166
医学部 附属病院（総合案内）	〃	018-834-1111
バイオサイエンス教育・研究センター 動物実験部門	〃	018-884-6193
バイオサイエンス教育・研究センター 放射性同位元素部門	〃	018-884-6196
バイオサイエンス教育・研究センター 分子医学部門	〃	018-884-6191
環境安全センター	〃	018-884-6192
附属図書館 医学部分館	〃	018-833-6218



本道地区

〈保戸野地区〉

名 称	所在地	電話番号
教育文化学部 附属幼稚園	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14番32号	018-862-2343
教育文化学部 附属小学校	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13番1号	018-862-2593
教育文化学部 附属中学校	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7番75号	018-862-3350
教育文化学部 附属特別支援学校	〃	018-862-8583



保戸野地区

〈その他施設〉

名 称	所在地	電話番号
手形寮(女子)	〒010-0862 秋田市手形田中5番50号	018-833-3319
北光寮(工学資源学部男子)	〒010-0851 秋田市手形西谷地5番地	018-833-2856
本道寮(女子)	〒010-0825 秋田市柳田字糖塚100-3	—
国際交流会館	〒010-0862 秋田市手形田中5番50号	—
留学生会館	〒010-0041 秋田市広面字高田4番	018-831-2170
留学生会館分館	〒010-0873 秋田市千秋城下町3番28号	—
戸賀臨海実習所	〒010-0673 男鹿市戸賀塩浜字平床39の2	0185-37-2024
乳頭ロッジ	〒014-1201 仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-228	0187-46-2110
放送大学秋田学習センター	〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号	018-831-1997

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map



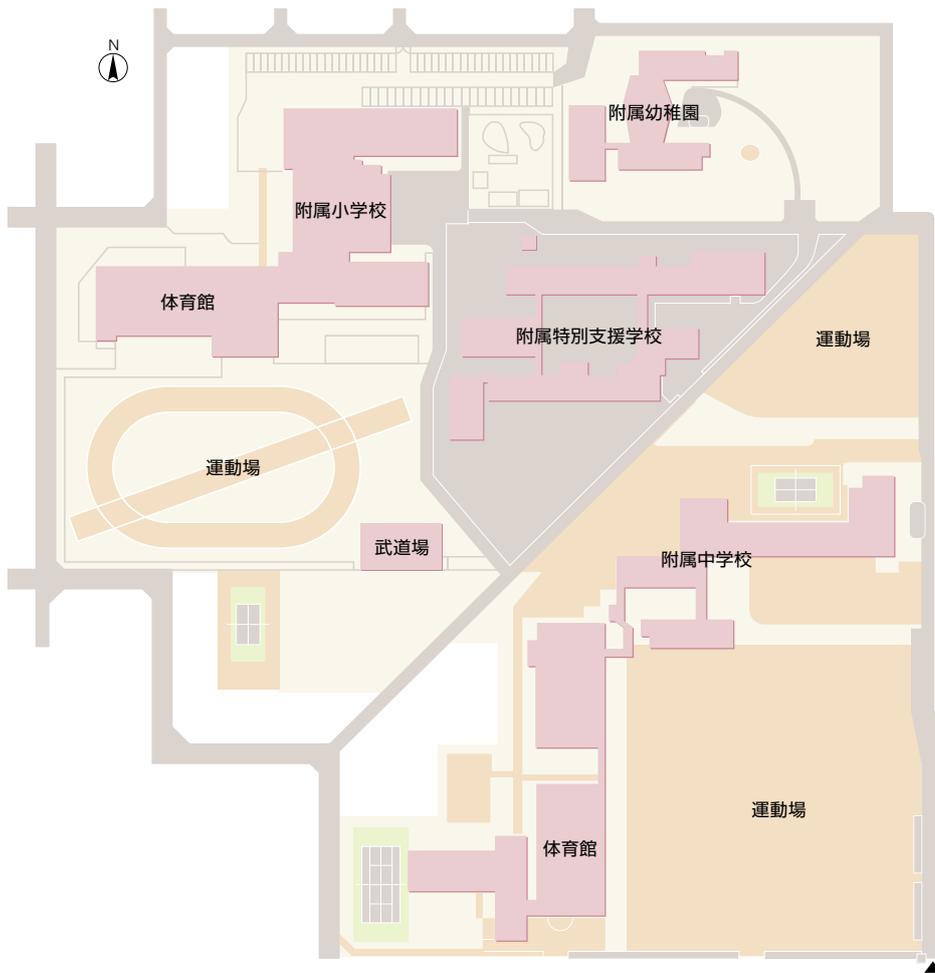
本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



学 年 暦

●学年

前 期…… 4月1日～ 9月30日

後 期……10月1日～ 3月31日

●式典(平成21年度)

入学式……4月 7日

卒業式……3月22日

●休業(平成21年度)

夏季休業…… 8月 6日～ 9月30日

冬季休業……12月26日～ 1月 8日

春季休業…… 2月20日～ 3月31日

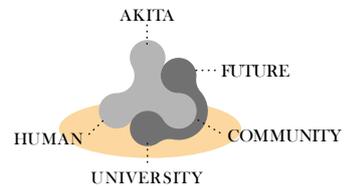
学 章



秋田大学の学章については、昭和24年9月16日に秋田大学開学記念として、懸賞募集の結果、臨時評議会において1等当選となった図案である。

3枚の秋田藩の葉に、大学の文字を配したもので、当時の鉱山学部教官中村譲氏の考案による。その後秋田大学のシンボルマークとして使用されてきたが、平成16年4月1日に学章として定められ、同時に校旗の制式も定められた。

ロゴマーク



それぞれの円には、上の5つの意味を込めている。また、オレンジの形の3頂点は秋田大学の3学部存在を表している。



オレンジの形には Akita の "A" を、ブルーの形には University の "U" のイメージを持たせている。
